新約聖書馬太傳　全

G. M. Dexter
Osaka

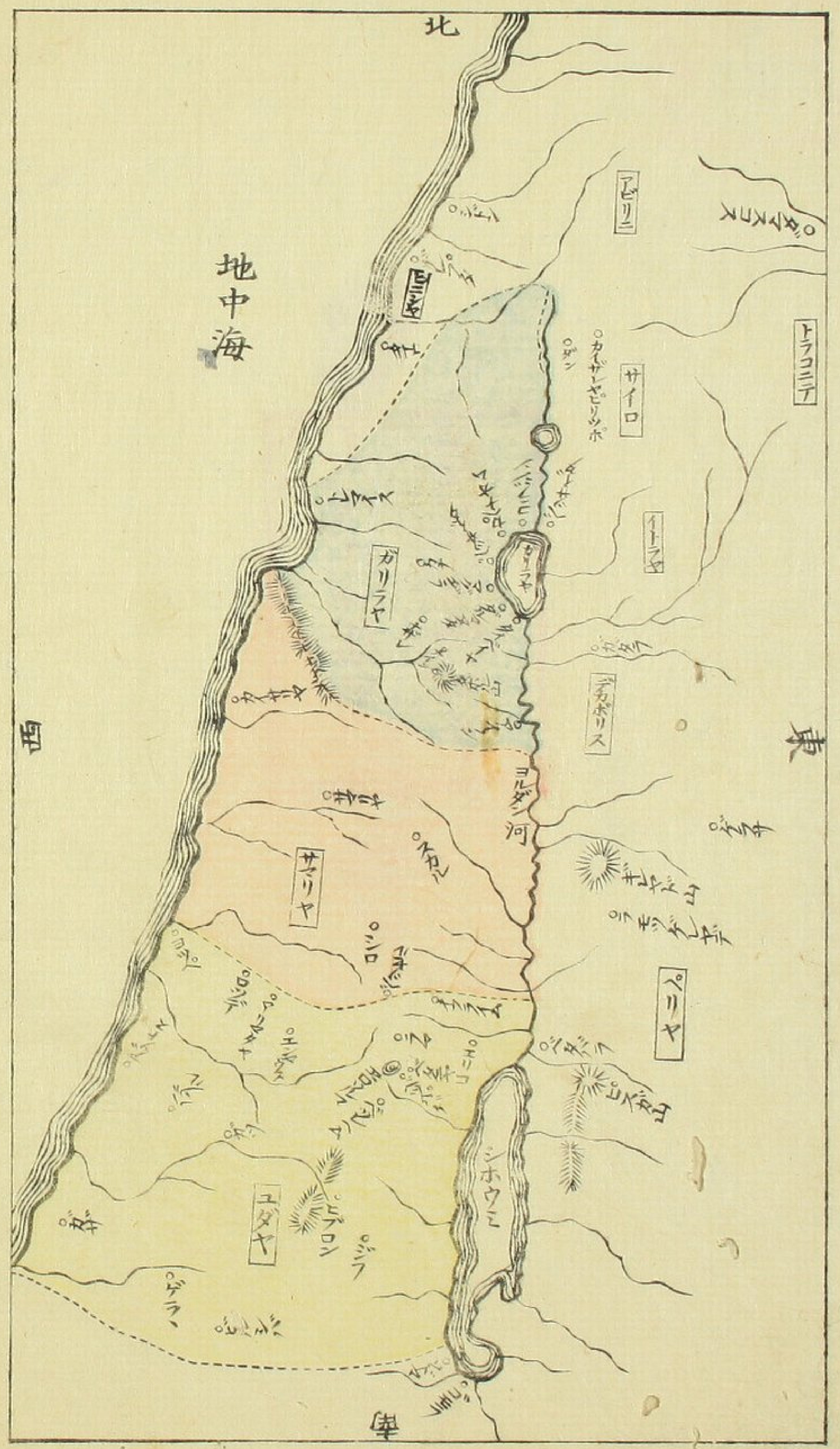
ハ　7
3390

かーむ

大阪川口居留地
英二番館禮拜堂

門 ハ
號 3390
巻

41= 9759


北
東
西
南
地中海
ダマスコス
アビリニ
トラコニテ
サイロ
ガリラヤ
デカポリス
ヨルダン河
サマリヤ
ペリヤ
ユダヤ
シホウミ

京都帝國大學圖書

新約聖書巻之一（しんやくせいしよけんのいち）

馬太傳福音書（またいでんふくいんしよ）

第一章

アブラハムのすゑダビテのすゑ耶穌（イエス）キリストの系譜（けいづ）

二アブラハム イサクをうミて イサク ヤコブをうミ ヤコブ ユーダとその兄弟をうミ 三ユーダ タマルのはらにパレスとザラをうミ パレス ヱスロンをうミ ヱスロン アラムをうミ 四アラム アミナダブをうミ アミナダブ ナーソンをうミ ナーソン サルモンをうミ 五サルモン ラカブのはらにボーズをうミ ボーズ ルツのはらにヲベデをうミ ヲベデ イヱツサイをうミ 六イヱツサイ ダビヂ王（わう）をうミ ダビヂ王（わう）ウリヤの妻（つま）のはらにソロモンを

うみ [七]ソロモン ロボアムをうみ ロボアム アビアをうみ アビア アサフをうみ [八]アサフ
ヨサパテをうみ ヨサパテ ヨラムをうみ ヨラム ヨジヤをうみ [九]ヨジヤ ヨアタムをうみ
ヨアタム アカズをうみ アカズ エセキヤをうみ [十]エゼキヤ マナセをうみ マナセアモン
をうみ アモンイヨシアをうみ [十一]バブロンにうつされるとき イヨシア イヱコニア
とその兄弟をうみ [十二]バブロンにうつされるのち イヱコニヤ サラチエルをうみ
サラチエル ゾロバベルをうみ [十三]ゾロバベル アビウデをうみ アビウデ エリアキンをう
み [十四]エリアキン アゾルをうみ アゾル サドクをうみ サドク アキンをうみ アキン
エリウデをうみ [十五]エリウデ エリアザルをうみ エリアザル マッタンをうみ マツタン
ヤコブをうみ [十六]ヤコブ マリアの夫（をつと） ヨセフをうみ この マリアより

キリストととなふる耶蘇（ヤソ）うまれたまへり [十七]かく アブラハムより ダビデま
での歴代すべて十四代 また ダビデより バブロンにうつるまで十四代
また バブロンにうつりてより キリストまで十四代なり [十八]それ耶蘇キリ
ストのうまれたまふことさのごとし その母 マリアハ ヨセフと契約し
ていまだともにならざるに聖霊（せいれい）に感（かん）じてはらみし こと
あらはれしが [十九]その夫（をつと） ヨセフハただしき人なればこれをはづか
しむることをほつせず ひそかに離縁（りえん）せんとおもへり [二十]かくて
このことをかんがへ居（ゐ）けるに主（しゆ）のつかひゆめのうちにあ
らはれていひけるハ ダビデのすゑ ヨセフよ なんぢの妻（つま） マリアに

めとるをおそるゝなかれ [illegible]はらみしものハ聖靈によるなり 二 まさに子をうまん その名を耶穌となづくべし かれその民をそのつみよりすくはんとすればなり 三 すべてこのことハ預言者によりて主のいひたまひしことばにかなふ 三 みよをとめはらみて子をうまん その名をエンマヌエルととなふべしといひしにかなふなり その名をとけバ神われらとゝもにあるといふこゝろなり 二四 ヨセフ目さめておきて主のつかひの命ぜしごとくしてその妻をめとりしが 二五 初子のうまるゝまで交合もせざりき しかしてその名を耶穌となへり

第二章

さて耶穌ハヘロデ王のときユダヤのベツレヘムにうまれたまひしが ある博士たちひがしのかたよりエロソルマにきたりていひけるハ ユダヤ人の王とてうまれたまひしものハいづこにゐますや われらひがしのかたにてその星をみれバきたりてこれを拜せんとてきたれり 三 ヘロデ王これをきゝていたくおどろき エロソルマの民もみなさわぎけり 四 すべての祭司のをさたちと民のがくしやとをあつめてそれにとひけるハ キリストのうまるべきところハいづこなるやと 五 かれらいひけるハユダヤのベツレヘムなり それハよげんしやのしるされしごとく

ユダヤの地ベツレヘムよなんぢハユダヤの郡中にていたつてちいさきものにあらずいつくしきあるじハわがイスラエルの民をやしなふべき[illegible]そのうちよりいでんといへり七こゝにおいてヘロデひそかにはかせたちをよび星のあらはれしときをくはしくとひてそれをベツレヘムへつかハさんとしていひけるハゆきて嬰兒のことをくはしくたづねてこれにあはゞつげしらせよわれもゆきてこれを拜せんとおほせられけれバ九かれら王の命をきゝてゆけりこゝにひがしのくにて見し星かれらにさきだちてをさな子のところまでゆきてそのうへにとゞまりぬ十かれらこの星をみてよろこびにたえず十一すでに家にいりてをさなごのその母マリアとともにゐるをみてひれふしをさなごを拜しそのたからのはこをひらき禮物黄金乳香沒藥をさゝげたり十二かれらゆめにヘロデへかへるなかれとのつげをうけほかのみちよりその國にかへりけり十三かれらさりてのちこゝに主のつかひヨセフのゆめにあらはれていひけるハヘロデをさなごをさがしころさんとするゆゑおきてをさなごとその母とをともなへアイグプトへにげさりなんぢにしめさんまでかしこにとゞまれと十四ヨセフおきて夜をさなごとその母とを[illegible]十五アイグプトにゆきヘロデの死するまでそこにとゞまれりこれハ

よげんしやによりて主のいはれたる子をアイグプトよりよびいだせりとのたまひしにことかなへり 十六 こゝにヘロデはかせにまどはさるゝをさとりおほひにいかり人をつかはしてはかせにくはしくたづねたるときにしたがつてベツレヘムとそのさかひのうちなるところのこども二歳より以下のものをことごとくころせり 十七 これよげんしやエレミヤのいはれたる 十八 なげきかなしみていたくなくこゑきこゆラケルその子どもをなげきまたその子どものなきによりてなぐさめらるゝをいとひしにかなへり 十九 ヘロデ死しけれバ主のつかひアイグプトにてゆめにヨセフにあらはれていひけるハ 二十 おきて嬰児とその母とをともなひてイスラヘルの地にゆけ をさなごのいのちをもとむるものはもはや死せり 二十一 おきあがりてをさなごとその母とをともなひてイスラヘルの地にいたるに 二十二 アルケラヲその父ヘロデにかはりてユダヤの王たりときゝてそこへゆくをおそれしがゆめにつげをかうむりてガリラヤのうちにさけ 二十三 ナザレといへるむらにいたりてすみにける ナザレ人となづけらるべしとよげんしやによりていはれしことにかなはんがためなり

第三章

そのころ洗禮をさづくるヨハン子きたりユダヤの野にてすゝめて

二いひけるハ天國ハちかきにあれバ悔あらためよ三これハ主のみちをそなへそのみちをなほくせよと野によばゞる人のこゑありとよげんしやイザヤがいひしハこの人なり四このヨハ子ハ身にらくだの毛ごろもを着腰に皮のおびをむすびその食物ハ蝗と野蜜なり五そのときにおいてエロソルマおよびユダヤこぞつてまたヨルダンの四方より人〻いでゝヨハ子にきたり六そのつみを懺悔しかれによりてせんれいをヨルダンにてうけたり七そのせんれいにパリサイおよびサドカヒの人〻おほくきたるをみてかれにいひけるハ蝮のたぐひおこらんとする怒をさくることたれがなんぢらにしめしたるぞや八されバ悔あらたむるにかなふべき實をむすぶべし九われらの先祖にアブラハムありといふことをこゝろに思ふなかれいかにとなれバわれなんぢらにつげん神ハよくこの石をもてアブラハムの子となせ給斧ハ樹の根におかるすべてよき實をむすばざる樹ハきられて火になげいれらる十一われハなんぢらのくひあらたむるについて水をもて汝らにせんれいをさづくれどよりのちにきたらんものハわれにまされりわれハその履をとるにたらずその人ハ聖靈と火とをもてなんぢらにせんれいをさづけん十二その箕を

その手にもつてその庭をきよめその麦をあつめて庫にいれそのからをきえざる火にてやくべし十三このとき耶蘇ヨハン子によりて洗禮をうけんためにガリラヤよりヨルダンにきたりたまへり十四ヨハン子いなみていひけるハわれハ主よりせんれいをうくべきものなるにかへつてわれにつきたまふや十五耶蘇こたへていひけるハいまゆるせよかくのごとくわれらすべてのたゞしきことをなしとぐべしそこにおいてヨハン子これをゆるせり十六耶蘇せんれいをうけてたゞちに水よりあがりしに天かれにひらけ神の靈鴿のごとくくだりてそのうへにきたるをみたまふ十七また天よりこゑありてこれハわがこゝろにかなふところの愛子なりといふ

第四章

さて耶蘇あくまにこゝろみられんために聖靈に野にみちびかれたり二四十日夜ものをも食ずのち飢たり三こゝろむるものきたりていひけるハなんぢもし神の子ならバこの石をぱんになれと命ぜよといへるに四こたへていひけるハ人ハぱんのみにていきず神のくちよりいづるすべてのことバによるとしるされたり五あくまかれをみやこにつれゆき殿

のいたゞきにたゝせていひけるハなんぢもし神（かみ）の子（こ）ならバ身（み）をなげおろせいかにとなれバなんぢがためにそのつかひたちに命（めい）じたまひて足（あし）の石（いし）にあたらぬやうにその手（て）にてなんぢをさゝげんとしるされたり七耶穌かれにいひけるハ主（しゆ）なるなんぢの神（かみ）をこゝろむべからずとまたしるされたりと八あくまかれをいとたかき山につれゆき世界（せかい）の國（くに）〱とその榮（さかえ）とをみせて九なんぢもしひれふしてわれを拝（をが）まバこれをみななんぢにあたへんといへり十こゝにおいて耶穌かれにいひけるハサタナのけよ主（しゆ）なるなんぢの神（かみ）を拝（はい）してそれにつかふべしとしるされありと十一やがてあくまかれをはなるゝにつかひたちきたりてかれにつかへり十二さて耶穌ヨハン子がとらへられたるをきゝてガリラヤへゆき十三ナザレをはなれザブロンと子フタレムとのさかひなるうみべのカペナオムにいたりてこゝにをる十四よげんしやイザヤのことばに十五ザブロンの地（ち）と子フタレムの地（ち）とハうみべにてヨルダンのむかふ異邦人（いはうじん）のガリラヤ十六くらきにをる民（たみ）ハおほいなるひかりを見（み）死（し）蔭（かげ）のところにをるものまでひかりハてらしゝといへれしにかなふ十七このをりこれより耶穌かれをしへたまひて天國（てんごく）ハちかきにあれバくひあらためよといひはじめたまへり十八耶穌ガリラヤ

のうみべをあゆみペテロといふシモンとその兄弟アンデレがあみを海（うみ）にうつをみたまへり これハもとより漁師（すなどり）なりければ 十九 かれらにいひけるハ われにしたがへ われなんぢらを人をすなどるものとなさん 二十 かれらやがてあみをすてゝかれにしたがへり 二十一 そのところよりすゝみけるにほかの兄弟ふたりゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ 父ゼベダイとともに舟（ふね）にありてあみをつくろふをみてかれらをよびければ 二十二 かれらもやがて舟と父とをおきて耶蘇にしたがふ 二十三 耶蘇ガリラヤをあまねくめぐりその會堂（くわいだう）にておしへ天國（てんごく）の福音（ふくいん）をのべたまひ民（たみ）のうちなるのやまひをいやせり 二十四 その評判（ひやうばん）あまねくスリヤにひろまりければ人々すべてさまざまのやまひまたいたみになやむもの あくまにつかれたるもの狂氣（きやうき）癲（てん）癇（かん）のやまひにかゝるものをかれにつれきたるにかれいやせり 二十五 ガリラヤとデカホリ ユダヤ ヨルダンのむかふよりおほくの人々かれにしたがへり

第五章

耶蘇おほくの人をみて山にのぼり坐（ざ）したまひしにそのでしたちかれにきたりければ 二 くちをひらきをしへていひけるハ

けらくハ三 こころのうちへりくだるものがさいはひなるものなりいかにとなれバその人の國ハ天國なれバなり四 かなしむものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハなぐさめをうくべきものなれバなり五 柔和なるものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハ地球をあひつぐべきものなれバなり六 飢渇ごとくただしきことをおもふものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハ盈らるべきものなれバなり七 あはれむものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハあはれみをうくべきものなれバなり八 こころのうちいさぎよきものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハ神にまみゆべきものなれバなり九 和睦をもとむるものハさいはひなるものなりいかにとなれバその人ハ神の子ととなへらるべきものなれバなり十 ただしきことのためにせめらるるものハさいはひなりいかにとなれバその人の國ハ天國なれバなり十一 ひとびとわれのためになんぢらをののしりせめまたいつはりてさまざまのあしきことをいふときはなんぢらさいはひなるものなり十二 よろこびよろこべいかにとなれバ天になんぢらのむくひおほけれバなり先だちたりしさきのよげんしやのせめられたりしもかくのごとくなれバなり十三 なんぢらハ地のしほ

なりもし しほその あぢはひを失なへば いづくぞそのしほにかへん その後（のち）は たゞそとにすてられ人にふまるゝのみなりもやくにたゝず 十四 なんぢらは世（よ）のひかりなり山のうへにたてたる城（しろ）もかくるゝことあたはず 十五 あかりをともしてこれを斗下（ますのした）におくことなし燭臺（しよくだい）におきて家（いへ）にあるすべてのものをてらすなり 十六 かくのごとくひとのまへになんぢらのひかりをかゞやかせ さすれば人々なんぢらのよきおこなひをみて天（てん）にましますなんぢらの父をあがむべし 十七 われおきてとよげんをやぶるためにきたるものとおもふことなかれ これをすつるにあらずしてかなへんためなり

なればなり 十八 まことになんぢらにつげん天地（てんち）のつきざるうちにおきての一點一畫（いつてんいつくわく）も遂（とげ）つくさずしてすつべからず 十九 ゆゑにこのいましめのいとちひさきひとつをやぶりてかく人にをしゆるものは天國（てんごく）においていとちひさきものといはれん およそおこなひて人にをしゆるものは天國においてことおほひなるものといはるべし 二十 われなんぢらにつげん なんぢらのたゞしきことがくしやとパリサイの人のたゞしきよりもすぐれずんばかならず天國（てんごく）にいることかなふまじ 二十一 いにしへの人にいへるところをなんぢらきゝしところ ころすものは審判（さばき）にあづからんといへること

なんぢらのきゝしところなり[illegible]わがしこてもなんぢらにつげんもつてゆゑなくその兄弟をいかるものハさばきにあづかるべし またその兄弟をラカといふものハ評定にあづかるべし またたはけものよといふものハ地獄の火にあづかるべし 二三 ゆゑになんぢもしそなへものを壇にたづさへそこにて兄弟のなんぢについてことありしをおもひいださバ 二四 かの壇のまへにそのそなへものを置ゆきてまづなんぢの兄弟とあひやはらぎそのゝちきたりてなんぢのそなへものをあげよ 二五 なんぢをうつたふるものとつれだちてゆくときはやくやはらげよ おそらくハうつたふるものなんぢをさばくべきやくにんにわたしさばくべきやくのなんぢをしもの役人にわたしてなんぢハひとやにいれられん 二六 まことになんぢにつげん分厘までもつくのはずんバそこをいづることあたはじといふ 二七 むかしの人に淫するなかれといひしことハなんぢらのきゝしところなり 二八 されどわれなんぢらにつげんおよそ色情をもつてをんなをながむるものハこゝろのうちにはや淫せしなり 二九 右の眼なんぢをつみにおとさバぬきとりてすてられよ なんぢにとりてハ五體のひとつをうしなふとも全身地獄になげいれられざるハまされり 三十 右の手汝を

つミにおとさバこれをきりてすてよいかにとなれバ五體のひとつをうしなふハ全身地獄になげいれられんにハまさるなり 三一 また人その妻をいださバそれに離縁ぢやうをあたふべしと云へ 三二 されどわれなんぢらにつげん淫事のゆゑならずしてそのつまをいだすものハこれに淫事あらしむるなりまたいださるをんなをめとるものも淫事をなすなり 三三 またいつはりのちかひをなすことなかれ主になんぢのちかふところをとぐべしといにしへの人のいひしをなんぢらの聞しところなり 三四 されどわれなんぢらにつげんさらにちかふことなかれ天をさしてちかふなかれこれ神のくらゐなれバなり 三五 地をさしてちかふなかれこれ神の足ぶミなれバなりエロソルマをさしてちかふなかれこれ大王のミやこなれバなり 三六 なんぢのかしらをさしてちかふなかれこれひとすぢの毛だにもしろくしまたくろくするあたハざれバなり 三七 なんぢらのことばをしかり〳〵いな〳〵とこれよりすぐるハあしきよりいづるなり 三八 目にて目をつくのひ歯にて歯をつくのへといひしをなんぢらきゝしところなり 三九 されどわれなんぢらにつげんあしきに敵たいするなかれ[illegible]なんぢの右の頬をうたバ左の

頬(かほ)もこれにさしむけよ 四十 なんぢを訟(うつた)へて衣(ころも)をとらんとするものにハうハ衣(ぎ)をもこれにとらせよ 四一 人なんぢに一里(いちり)の公役(こうやく)を強(しひ)なバこれとともに二里(にり)ゆけよ 四二 なんぢにもとむるものにあたへて借(かる)んとするものにハいなむなかれ 四三 隣(となり)をいつくしみてあだ人をうらむべしといひしとなんぢらきゝしところなり 四四 されどわれなんぢらにつげん なんぢらのあだ人をいつくしみ汝(なんぢ)らをのろふものゝためにさいはひをねがへなんぢらをうらむるもののよきことをなしなんぢらにさからふものとせむるもののためにいのれ 四五 されバ天(てん)にましますなんぢらの父(ちゝ)の子(こ)なるべしいかにとなれバその日をよきものにもあしきものにもてらし雨(あめ)をたゞしきものとたゞしからざるものとにふらしたまふ 四六 なんぢらもしいつくしむものをいつくしまバなんのむくいあらんや みつぎとりもかくなさゞらんや 四七 もし安否(あんひ)を兄弟のみにとはゞなんのまされることあらんや みつぎとりもかくなさゞらんや 四八 さらバ天(てん)にましますなんぢらの父のまつたきをつくせるごとくなんぢらもまつたきをつくすべし

第六章

なんぢらのたゞしきを人にみせんために人のまへにおこなふことをつゝしめよ しからずんバ天（てん）にまします汝（なんぢ）らの父よりのむくひをえじ 二 ゆゑにほどこしをなすにことさらに人よりあがめをえんとて會堂（くわいどう）やちまたにて偽善（ぎぜん）しやの風聴（ふいちやう）するごとくなすことなかれ 誠に[illegible]なんぢらにつげん かれらハそのむくひをうる 三 なんぢらほどこしをなすに右（みぎ）の手（て）のなすところを左（ひだり）の手にしらしむるなかれ 四 さすれバなんぢのほどこしハかくるべし かくれたるをみたまふなんぢの父ハあらハになんぢにむくひたまはん 五 いのるときは偽善（ぎぜん）しやのごとくなるなかれ いかとなれバかれらハ人にみられんために會堂（くわいどう）やちまたの隅（すみ）にたちていのることをこのむ まことになんぢらにつげん かれらハそのむくひをうる 六 なんぢいのるときは室（へや）にいりとぢこもりてかくれたるにいますなんぢの父にいのれ かくれたるにみたまふなんぢの父ハあらハになんぢにむくひたまはん 七 いのるに異邦人（いはうじん）のごとくくりかへしごとをいふことなかれ いかとなれバかれらハことバおほけれバきかれんとおもへバなり

八 ゆゑにかれらにならふことなかれ いふとなれハ汝（なんぢ）らの父ハねがはざるさきになんぢらの なくてかなはざるものをしりたまへり 九 ゆゑに左（さ）のごとく なんぢらいのるべし 天（てん）にましますわれらの父（ちゝ）よ ねがはくハ聖名（みな）をあがめさせたまへ 十 神國（みくに）をきたらせたまへ 聖意（みこゝろ）を天（てん）になるごとく地（ち）にもなさしめたまへ 十一 われらの日（ひ）ゞの糧（かて）を 十一 今日（けふ）もさづけたまへ 十二 われらが人のつみをゆるすごとく われらのつみをもゆるしたまへ 十三 われらをこゝろみにあはせで いざなひにみちびきたまはずして悪（あく）よりすくひいだし

たまへ 國（くに）と權（ちから）と威光（いくわう）とハ あなたのかぎりなくたもちたまふものなれバなり 亞孟（あめん） 十四 いふとなれバもしなんぢらひとのつみをゆるさば 天（てん）にましますなんぢらの父もなんぢらをゆるしたまはん 十五 されどももし人のつみをゆるさゞれバなんぢらの父もなんぢらのつみをゆるしたまはじ 十六 なんぢら禁食（だんじき）をするとき偽善（ぎぜん）しやのごとく憂（うき）さまをするなかれ いふとなれバかれらハ禁食（だんじき）を人にみせんためにかほいろをそこなふなり われまことになんぢらにつげん かれらハそのむくひをうる 十七 さりながらなんぢ禁食（だんじき）するときにかしらにあぶらをつけ

かほをあらふべし　さすれバ人にハなんぢの禁食(だんじき)ハあらハれずぞしてかくれたるにましますなんぢの父にあらハれん　またかくれたるにミたまふなんぢの父あらはになんぢにむくひたまふべし　十九地(ち)にたからをたくハふることなかれ　そこハ蠹(しみ)くひ錆(さび)くさりぬすびとうがちてぬすむところなり　二十天(てん)にこそたからをたくハふべけれ　そこハ蠹(しみ)くひ錆(さび)くさりぬすびとうがちてぬすまざるところなり　二一いふとなれバなんぢらのたからのあるところにこそこゝろもまたあるべけれ　二二身(み)のひかりハ目(め)なり　ゆゑになんぢの目(め)もしあきらかならバなんぢの全身(ぜんしん)あきらかなるべし　二三なんぢの眼(め)もしあしくバ全身(ぜんしん)くらかるべし　ゆゑになんぢのうちにあるひかりもしくらからバいかばかりぞや　二四人ハふたりの主(しゅ)につかふることあたハず　いふとなれバこれをにくみかれをいつくしみ　これをしたしみかれをうとむべけれバなり　なんぢら神とたからにかねつかふることあたハず　二五このゆゑにわれなんぢらにつげん　いのちのためになにを食(くら)ひなにをのまんとハ身(み)のためになにを衣(き)んとおもひわづらふなかれ　いのちハ糧(かて)よりまさり身(み)も衣(ころも)よりまされるものにあらざるその

二六 そらの鳥(とり)をおもひみよ いかにとなれバ蒔(ま)かずからず倉(くら)に
たくはへず されどもなんぢらの天(てん)の父ハこれをやしなひ
たまふ なんぢらハそれよりいとすぐるゝものにあらずや
二七 なんぢらのうちたれかおもひわづらふてそのいのち尺寸(せきすん)も
ながくのぶることをえんや 二八 またなにゆゑに衣(ころも)のことをお
もひわづらふや 野(の)の百合(ゆり)のいかにそだつかよくみよ それハ
つとめず紡(つむ)がず 二九 されどわれなんぢらにつげん ソロモンだに
もそのすべての榮(さかえ)にこの花(はな)のひとつほども粧(よそほ)ハざりき
三十 神ハけふ野(の)にありて明日(あす)爐(ろ)になげいれらる草(くさ)

をもかくよそほせたまへバ ましてなんぢらをや あ汝(なんぢ)ら
信仰(しんかう)うすきものよ 三一 ゆゑになにを食(くら)ひなにを飲(のみ)なにを衣(き)ん
とておもひわづらふことなかれ 三二 これみな異邦人(いはうじん)のもと
むるものなれバなり なんぢらの天(てん)の父(ちち)ハみなそのものをなく
てかなはざるものとしりたまへバなり 三三 なんぢらまづ神(かみ)の
國(くに)とそのたゞしきことをもとめよ されバこれらのものを
なんぢらにくはへらるべし 三四 ゆゑに明日(あす)のことをおもひわづ
らふなかれ いかにとなれバ明日(あす)ハあすのことをおもひわづら
ふべし 一日(いちにち)のあしきハ一日(いちにち)にてたれり

第七章

なんぢらとがめられぬやうに人をとがむることなかれいかにとなれバ汝（なんぢ）らが人をとがむるところのとがめをもつてとがめらるべし二いかにとなれバまた汝（なんぢ）らが人をはかるところのはかりをもつてはからるべし三おのれの目（め）に梁木（うつばり）をおぼえずしてなんぞ兄弟の目（め）にある塵（ちり）をみるや四おのれの目（め）にうつばりのあるにいかで兄弟になんぢの目（め）にあるちりをつまにとらせよといふことをえんや五偽善（ぎぜん）しやよまづおのれの目（め）のうつばりをいだしてそののち兄弟のめのちりをいださんとてあきらかに見（み）べし六犬（いぬ）に聖（せい）なるものをあたふることなかれまた豕（ぶた）のまへになんぢらの真珠（しんじゅ）をなぐることなかれおそらくは足（あし）にてそれをふみつけてなんぢらをかみやぶらん七もとめよさらばなんぢらにあたへられんたづねよさらばなんぢらあはん門（もん）をたゝけよさらばなんぢらにひらかるべし八いかにとなれバすべてもとむるものハうけたづぬるものハあひ門（もん）をたゝくものにひらかるべし九なんぢらのうちたれかもしその子（こ）餅（ぱん）をもとむるに石（いし）をあたへんや十また魚（うを）をもとむるに蛇（へび）をあたへんや十一されバなんぢ

ちあしきものながらよきものをなんぢらの子どもに
あたふるをしる まして天（てん）にましますなんぢらの父ハなほ
もとむるものによきものをあたへざらんや 十二 ゆゑにすべて人の
なんぢらになさるゝやうにとおもふことハなんぢらもかく人に
なすべきことなりこれおきてと預言者（よげんしや）なればなり
十三 せばき門（もん）よりいれよ いかにとなれバほろびにいたる
みちハひろくその門ハおほいなりこれよりいるものおほ
し 十四 いのちにいたるみちハなやましくその門ハせばくそ
のみちをうるものすくなし 十五 いつはりの預言者（よげんしや）をつゝし
めよ それハ綿羊（めんやう）のすがたにてなんぢらにきたれども内心（うち）ハ
あらき狼（おほかみ）なり 十六 その果（み）によりてそれをしるべし 荊（いばら）より
葡萄（ぶどう）をとりあざみより無花果（いちじく）をとらんや 十七 かくすべて
よき樹（き）ハよき果（み）をむすびまたあしき樹（き）ハあしきさねを
むすぶ 十八 よき樹（き）ハあしきさねをむすばずまたあしき樹（き）
ハよきさねをむすぶことあたはず 十九 すべてよきさねをむすば
ざる樹（き）ハきられて火（ひ）になげいれらる 二十 ゆゑにその
によりてそれをしるべし 二一 われを主よ〳〵といふもの
すべて天國（てんこく）にいらずたゞわが天（てん）にまします父の旨（むね）に

ちくだものハしるべし 二二 その日主(しゆ)やく主(しゆ)の名(な)によりておしへ主(しゆ)の名(な)によりて魁(おに)をおひ主(しゆ)の名(な)によりておほくふしぎなるわざをなせしにあらずやとこれにいふものおほからん 二三 そのときこれらてなんぢらをしらずとぞあしきをなすものよわれをはなれてゆけとこれらにいふべし 二四 ゆゑにすべてわがことばをきゝてそれをおこなふものを磐(いは)のうへに家(いへ)をたつるかしこき人にたとへん 二五 あめふり洪水(こうずい)いで風(かぜ)ふきその家(いへ)にあたれどもたふれざりき磐(いは)をいしずゑとせればなり 二六 すべてわがこのことばをきゝておこなはざるものを砂(すな)のうへに家(いへ)をたつるおろかなる人にたとへん 二七 あめふりおほ水(みづ)いでかぜふきその家(いへ)にあたれバたふれてそのたふれハおほひなり 二八 耶蘇このことバおへりたまふときあつまれる人々(ひと〴〵)そのをしへにおどろきあへり 二九 いかにとなれバ學者(がくしや)のごとくにあらずして權威(けんい)をもてるもののごとくこれらをおしへたまへり

第八章

耶蘇山をくだりしときおほくの人々これにしたが

り二こゝに癩病のものきたり拝していひけるハ主もしこゝろにかなはゞわれをきよくしたまふべし三耶穌手をのべかれにつけてこゝろにかなふきよくなれといへりたゞちにその癩病やみてきよくなりけり四耶穌かれにいひけるハつゝしんで人にいふなかれたゞゆきておのれを祭司にみせまたかれらに證據のためモーセがめいぜしところのそなへものをさゝげよ五カペナオムにいりしとき百夫の長かれにきたりねがふて六いひけるハ主よわがしもべ癱瘋にて家にうちふしてなやみゐてあり七耶穌かれにいひけるハわれゆきてこれをいやさん八百夫のかしらこたへていひけるハ主よわれハあなたをわが家屋の下にいるゝにもたらずたゞことばをいひたまふのみにてわがしもべハいゆべし九それわれハ權威の下にあるものなれどもわがしたにもまたつはものありこれにゆけといへばゆきこれにきたれといへばきたるまたわがしもべにこれをせよといへばなすと十耶穌きゝてあやしみしたがふものどもにいひけるハまことになんぢらにつげんイスラエルのうちにてもいまだかくのごときおほひなる信にあはざりき十一われなんぢらにいふおほくの人ぐ東より西

からきたり天國においてアブラハム イサク ヤコブとともに坐し
十二國の子どもハ外のくらきにおひいだされそこにてかなしミ
はがみをなすことあるべし 十三耶蘇百人のかしらにゆけ汝が
信ずるごとくなんぢになるべしといひけれバそのときにその
しもべハいえたり 十四耶蘇ペテロの家にいりその姑の熱病にて
ふしたるをみてその手にさはりければ熱さめたり女おきて
てかれらをもてなせり 十六日くれるとき人々鬼にとり
つかれたるおほくのものをつれてきたれバ耶蘇ことバ
にて鬼をおひいだしやまひあるものをことごとくいやせり

預言者エザヤがまうしつるわれらのわづらひをひきうけ
われらのやまひを負といひしによくかなへり 十八さて耶蘇
おのれをめぐれるおほくの人々をみてむかふのきしにゆけと
命ぜし 十九ひとりがくしやきたりてこれにいひけるハ師よい
づくへゆきたまふともつきしたがはん 二十耶蘇これにいひ
けるハ狐ハあなあり空の鳥ハねぐらありされど人の子に
ハ枕するところなし 二十一またそのでしのひとり耶蘇にいひ
けるハ主よまづゆきて父をはうむることをゆるせ 二十二耶
蘇これにいひけるハわれにしたがへ死したるものにその死

しゝるのをはうむらせよ二三耶穌舟(ふね)にのりしにそのでしたちこれにしたがふ二四ここに舟(ふね)なみにておほはれんとするほどごとくさおほひなるはやておこりたるに耶穌はいねたり二五そのでしたちきたりてこれをおこしていひけるは主(しゆ)よわれらをすくひたまへほろびんとす二六耶穌かれらにいひけるは信(しん)うすきものよなんぞおそるゝやつひにおきて風(かぜ)と海(うみ)とをいましめておほひにおだやかになりぬ二七人々あやしみていひけるは風(かぜ)もうみもこれにしたがふはこれいかなる人ぞや二八耶穌むかふのきしゲルゲセンの地(ち)にいたるに鬼(おに)にとりつかれたるふたりのものの墓(はか)よりいでゝこれをむかふはなはだたけくして人そのみちをすぐることあたはず二九かれさけんでいひけるは神(かみ)の子(こ)耶穌よわれらなんぢにおいてなんぞあづからんやときいまだいたらざるにきたりてわれらをせめんとてこゝにきたるや卅豕(ぶた)のおほくむらがりてとほくはなれたるところにて食(しよく)せり三一鬼(おに)耶穌にねがひていひけるはもしわれらをおひいださば豕(ぶた)のむれにいることをゆるせ三二かれらにゆけといひけるに鬼(おに)いでゝ豕(ぶた)のむれにいりぬるに豕(ぶた)のむれは坂(さか)より海(うみ)にかけおちて水(みづ)に死(し)しぬ三三牧ものどもにげてむらにいりこの

に鬼にとりつかれしものゝありしことをつげぬこゝに邑のものこぞつて耶穌を見にいでゝかれをこふてそのさかひをいづきをねがへり

第九章

耶穌舟にのりこえてわがさとにいたりたまへり二こゝにひとり癱瘓にて床にふしたるものを舁きたる耶穌かれらの信ずるをみて癱瘓のものにいひけるは子よこゝろやすかれ汝のつみゆるされたり三こゝにあるがくしやらこゝろのうちにこの人ハけがすことをいふとおもへり四耶穌そのおもはくをしりていひけるハなんぢらいかなればこゝろにあしきをおもふや五それなんぢのつみゆるされたりといふこととおきてあゆめといふこととといづれかやすきや六されど人の子地においてつみをゆるすの権あることをしらせんとて癱瘓のものにいへりおきて床をとりなんぢの家にゆけ七かれすなはちおきてその家にゆけり八人々これをみてあやしみかくのごときちからを人にたまひし神をあがめり九耶穌こゝよりゆきてマタイとなづくる人税関に坐するをみてわれにしたがへといひければたちてしたがへり十耶穌家に食するときこゝに税吏つみある人

おほくきたりて耶穌とそのでしともに坐せり 十一 パリサイの人これをみてそのでしにいひけるハなんぢらの師ハいかなれバみつぎとるものつみある人とともに食するや 十二 耶穌きゝてこれにいひけるハすこやかなるものハ醫師のたすけをたのまず たゞやまひあるもののみ 十三 ゆきてあはれみをこのみてまつりをこのまずとハこれいかなるこゝろか[illegible]てまなぶべし それわれきたるハたゞしきものをまねくにあらずしてつみあるものを悔あらためさせんためなり 十四 そのときにヨハン子のでし耶穌にきたりていひけるハ我等とパリサイの人とハしばしば禁食をなすに師のでし禁食せざるハいかにぞや 十五 耶穌これにいひけるハ新娶のあるうちにその友かなしむことあたはんや 新娶かれらにひきさらるゝ日きたらん そのときにこそ禁食をすべけれ 十六 ふるきころもにあたらしき布にてつくろふものなし いかにとなれバそのつくろふものハころもをさくゆゑにそのやぶれなほあしくなれり 十七 またふるき革袋にあたらしき酒をいるゝことなし もしいれなバふくろはりさけ酒ながれいでゝふくろもまたすたる むなしくならん かへつてあたらしきふくろにあたらしき

酒(さけ)といれてふたつながらたれてるものなり 十八 耶穌かれらに このことをいふときこゝにある宰(つかさ)きたり拝(はい)してかれにいひ けるハわがむすめいまはや死(し)せんとせりきたりてかれに手(て)を つけたまはゞ生(いく)べし 十九 耶穌たちてそのでしとゝもにかれに したがへり 二十 こゝに十二年血(ち)漏(ろう)をわづらひゐる女(をんな)うしろに きたりてそのころものすそにさはりぬ 二一 いかにとなれバ もしころもにだにさはらバいえんとおもへバなり 二二 耶穌 ふりかへり女(をんな)をみていひけるハむすめよこゝろやすかれ汝(なんぢ)の 信(しん)汝(なんぢ)をいやせりとのたまふ女(をんな)このときよりいえたり 二三 耶穌

そのつかさの家(いへ)にいたるとき笛(ふえ)をふくものと人々のさわがしきを をみて 二四 かれらにいひけるハ退(のけ)よそのむすめハ死(し)せるにあら ずたゞいねぶれり人々耶穌をあざわらへり 二五 人々いだされ しのちいりてその手(て)をとりしに少女(をとめ)おきぬ 二六 このきこえ あまねくその土地(とち)にひろまれり 二七 耶穌こゝをさるときふたり の目(め)しひしたがひよびていひけるハダビデのすゑやわれらを あはれみたまへ 二八 さて家(いへ)にいりたるに目(め)しひきたりけれバ耶穌 かれらにいひけるハこれハわがなしうることゝ信(しん)ずるかかれ いひけるハ主(しゅ)さなり 二九 ときにかれらの目(め)に手(て)をつけて

いひけるハ汝(なんぢ)らの信(しん)ずるごとくになれと 三十 すなはちその眼(め)あけられけり耶穌かれらにきびしくいましめていひけるハ人のしらぬやうにつゝしめよ 三一 されどもかれらいでゝあまねくその土地(とち)に耶穌の名をひろめし 三二 かれらいづるときに人々鬼(おに)につかれたる喑唖(おし)をつれてかれにきたる 三三 鬼(おに)おひいだされて喑唖(おし)ものいへり人々あやしみいひけるハイスラエルのうちにいまだかつてかゝることハみえざりきと 三四 パリサイの人々いふハ鬼(おに)のかしらによりて鬼(おに)どもをおひいだせりといへり 三五 耶穌あまねくむらざとをめぐりその會堂(くわいだう)にてをしへ天國(てんごく)の福音(ふくいん)をひろめ民(たみ)のうちすべてのやまひすべてのわづらひをいやせり 三六 人々をみてあはれみぬかれらハ牧(かひ)ぬしのなき羊(ひつじ)のごとくなやみまよひちり〴〵になりしゆゑなり 三七 そのときでしたちにいひけるハまことに穡(かりいれ)ハおほくしてはたらくものハすくなしゆゑにかりいれの主(ぬし)にそのかりいれにはたらくものをつかはさんことをねがふべし

第十章

さて耶穌その十二でしをよびよせてけがれたる鬼(おに)どもをおひいだしまたすべてのやまひすべてのわづらひをいや

ちからをあたへたまへり 二 それ十二の使者の名ハ左のごとし はじめハペテロといへるシモンとその兄弟アンデレ ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハン子 三 ピリツポ バルトロマイ トマと 税吏マタイ アルパイの子ヤコブと タダイと名づくる レツバイ 四 カナンのシモン イスカリヲテのユーダこれハのちに耶穌をわたせしものなり 五 耶穌この十二をつかはしたまふた命じていひけるハ異邦のみちにゆくなかれまた サマリヤ人のむらにもいるなかれ 六 むしろイスラエルの家のうしなひし羊にゆくべし 七 ゆきて天國ちかきにありといひひろめよ 八 病ものをいやし 癩病をきよくし 死せるをよみがへらせ 鬼をおひいだせ ただでうけたれバただであたへべし 九 汝らの帯に金または銀または錢をとゝのふるなかれ また 十 旅ぶくろ ふたつの衣 履 杖もまたもちゆくなかれ それはたらくものハその食物をうくべきものなれバなり 十一 まで むらざとにいらバそのうちのよろしきものをたづねていづるまでそこにとゞまれ 十二 家にいるとき安否をとへ 十三 もしその家よからバ汝らのやすきハそこにいたらしめよ もしよからずんバ汝らのやすきハおのれにかへらしめよ 十四 もし汝らをうけず 汝らのことばをきかざるものあらバその家または

まちをさるとき足のちりをはらふべし 十五 まことに汝らにつげん審判の日ソドマとゴモラの地ハこのむらよりなほやすかるべし 十六 これにつきて羊を狼のうちにいるゝがごとく汝らをつかはす ゆゑに蛇のごとくさとく鳩のごとくおとなしかれ つゝしんで人にこゝろをつけよ それ人汝らを裁判所にわたし又その會堂においてむちうつべけれバなり 十八 わがゆゑにかれらがために奉行および王のまへにひかるべし これまたかれと異邦人に證據をたてんためなり 十九 人汝らをわたさんときいかやうにまたなにをいはんとおもひわづらふなかれ そのときあたれバいふべきことをそのときに汝らにたまはるべし 廿 それ汝らがいふにあらず汝らの父の靈汝らをしていはしむるなり 廿一 兄弟を死にわたし父ハ子をわたし子どもハ二親を訴へてこれらをころさせん 廿二 また汝らハわが名のためにすべての人に惡まれん されどおはりまでしのぶものこそすくはるべけれ 廿三 人このむらにて汝らをせめバかのむらににげよ まことになんぢらにつげん汝ら人の子のきたるまへにイスラエルのむらむらをめぐりつくさじ 廿四 でしハ師よりまさらず しもべハ主よりまさらず 廿五 でしハその師のごとくしもべハそのあるじの

[illegible]くならバ足べし もし人あるじをベルゼブルとなづけバましてその家のものをや 二六 ゆゑにかれらをおそるゝなかれ いかにとなれバつゝまれたるものハあらはれ かくれたるものハしられざることなけれバなり 二七 われ汝らにくらきにつげしことハあかるきにのべよ 耳にきゝしことハ屋のうへにいひひろめよ 二八 身をころして魂をころすことあたはざるものをおそるゝなかれ 寧たましひと體とを地獄にほろぼすことをうるものをおそれよ 二九 二羽の雀ハ一銭にてうらざるや その一羽も汝らの父のゆるさずんバ地におつることあたはず 三〇 汝らのかしらの髪もみなかぞへらる 三一 ゆゑにおそるゝなかれ 汝らハおほくの雀よりもまされり 三二 ゆゑにすべて人のまへにわれをしるといふものハわれもまた天にまします父のまへにわれもまたこれをしるといふべし 三三 人のまへにわれをいなむものハわれもまた天にましますわが父のまへにこれをいなむべし 三四 われ地におだやかをいださんためにきたるとおもふなかれ おだやかをいださんとにあらずして刃をいださんためにきたれり 三五 そハわれ人をその父にそむかせ娘をその母にそむかせ

嫁ハその姑にそむかせんためにきたれり 三六 人の仇ハその家のものなるべし 三七 われよりも父母をいつくしむものハわれにかなはざるものなりわれよりも子女をいつくしむものハわれにかなはざるものなり 三八 その十字架をとりてわれにしたがはざるものもわれにかなはざるものなり 三九 そのいのちをもとむるものハこれをうしなひわがためにいのちをうしなふものハこれをもとむべし 四〇 汝らをうくるものハわれをうくるなり又われをうくるものハわれをつかはしゝものをうくるなり 四一 預言者の名によりてよげんしやをうくるものハよげんしやのむくひをうくべし 四二 たゞしき人の名によりてたゞしき人をうくるものハたゞしき人のむくひをうくべし 門徒の名によりてこのちいさきものゝひとりのものにひやかなる水いつぱひまでものまするものハまことに汝らにつげんそのものこそそのむくひをうしなはざるべけれ

第十一章

耶穌その十二の門徒にをしへおはりしときそのむら〳〵において道ををしへひろめんためにそこをさりぬ 二 さてヨハン子獄においてキリストのわざをきゝそのでし二人をつかはして

三 [illegible]にいひけるハきたるべきものハあなたなるかあるひハ他のものをまたんか 四 耶蘇こたへていひけるハ聞ところのことをゆきてヨハン子にしらすべし 五 目しひハ見え跛者ハあゆみ癩病ハきよくつんぼうハきこえ死したるものハよみがへりまづしきものにハ福音をきかせり 六 つまづかざるものハさいはひなり 七 かれらかへりしのち耶蘇ヨハン子について人々にいひいでけるハなんぢらなにを見んとて野にいでしや風にうごかさるるあしなるか 八 なにを見んとていでしややはらかきころもをきたる人なるかみよやはらかきころもをきたるものハ王たちの宮にあり 九 なにを見んとていでしや預言者なるか實もなんぢらにつげんよげんしやよりもすぐれたるものなり 十 それみよわれ汝のまへに道をそなふるつかひを汝のまへにおくるとしるされたるものハこれなれバなり 十一 まことに汝らにつげん女のうみたるもののうちにいまだ洗禮をなすヨハン子よりおほひなるもののおこりしことなしなれども天國のちひさきものハこれよりおほひなるものなり 十二 洗禮をなすヨハン子のときより今にいたるまで天國ハはげしくせめられはげしきものいれをとるべし 十三 それすべての預言者と律法ハヨハン子の時

まへによげんせしなれバなり十四 もし汝らこゝろよくこれをうくるとこのきたるべきところのエリアハこれなり十五 きく耳あるものハきくべし十六 これらの世をなにゝたとへんや童市に坐してその友をよびて十七 汝らに笛をふけどもおどらず汝らになげくども汝らむねをうたずといふに似たり十八 それヨハ子食ず飲ずしてきたれバ人ハ鬼につかれしものといふまた十九 人の子ハ食飲してきたれバ人ハこゝに食をたしみ酒とのむものにて税吏およびつみあるものゝ友なりといへりされどもさときハその子どもよりよしとせられたり廿 そのとき

耶穌おほくの不思議なることをなしたまひたるむら〳〵悔あらためざるによつていましめのいでけるハ二一 わざはひなるかなコラジン わざはひなるかなベツサイダ それ汝らのうちになしたる不思議のことをタイロとシドンになされしならバ疾より麻を着灰を身にうけてくひあらたむべきものを二二 されどもこれ汝らにつげん審判の日にタイロとシドンハ汝らよりもなほやすかるべし二三 天にあげられたるカペナオムよ汝冥途におとさるべしまことなれバ汝になしたるふしぎのことをソドマにせしならバ今日までたもつべきものを二四 されどもこれ汝らにつげん審判

の日にソドマの地（ち）ハ汝らよりなほやすかるべし 二五 そのとき耶穌こたへていひけるハ天地（てんち）の主（しゅ）なる父よこれをかしこきさときものに隠（かく）し幼稚（をさなご）にあらはしたまふを謝（しゃ）す父よげにもしかりそれかくのごときハ父のおもひにかなひしことなればなり 二七 萬物（ばんもつ）ハわが父よりあづけられたり父の外子（こ）をしるものなくまた子（こ）と子に父をあらはさんとするものの外父をしるものなし 二八 すべてつかれたるものまたおもきを負（おふ）へるものハわれにきたれわれ汝らをやすませまをすべし 二九 わが軛（くびき）を負（おひ）てわれにまなべそれわれハこころにおいて柔和（にうわ）にしてへりくだるものなりされバ汝らのこころにやすきをうべし 三十 それわが軛（くびき）ハやすくわが荷（に）ハかろければなり

第十二章

そのとき耶穌安息日（あんそくにち）に禾田（むぎばたけ）をすぎしにそのでしら飢（うゑ）ければ穂（ほ）をつみ食（くひ）はじめたり 二 パリサイの人これをみて耶穌にいひけるハみよなんぢのでし安息日（あんそくにち）になすをべからざることをなす 三 かれらにいひけるハダビデとそのともなふもの飢（うゑ）たりしときなせしことをまだよまざるや 四 すなはち神の殿（との）にいりて祭（さい）司の外おのれあるひハいるもののくらふべからざるそなへの

餅をくらひたり 五 また安息日に祭司ハ殿のうちにて安息日をおかせども つみなきことを律法においてよまざるや 六 われなんぢらにつげん殿よりおほひなるものここにあり 七 われあはれみをこのみて祭をこのまずと このこころをしらば つみなきものをつみせざるべし 八 それ人の子ハ安息日の主なればなり 九 ここをさりて かれらの會堂にいりたまふ 十 ここに かた手なへたる人ありけれバ 耶穌にとひけるハ 安息日にいやすことハなすべきことか これかれを訴んとおもへるゆゑなり 十一 かれらにいひけるハ 汝らのうちひとつの羊をもつものその羊安息日に坑におちいらバ これをとりあげざらんや 十二 いかに人ハ羊よりまさるものならずや ゆゑに安息日にハよきことをなすハよし 十三 つひにその人に汝が手をのべよといひければ のべけり その手外の手のごとくいえたり 十四 パリサイの人ぞく いにして耶穌をころすべきやとあひはかれり 十五 耶穌これをしりてここをさりたまふに おほくの人ゞこれにしたがひたてまつる ことごとくいやせり 十六 おのれを人にあらはすなかれといましめり 十七 これよげんしやイザヤのいひしことバにかなへりいはく 十八 みよわがえらびししもべ わがいつくしみ心にかなひし

ものこれがうへにわが靈(たま)をおく、異邦人(いはうじん)にさばきごとをしめさんとすべし 十九 かれハあらそハずさけばず人ちまたにおいてそのこゑをきくまじ 二十 たゞしきを勝(かち)とげさするまでいたみし葦(あし)を折(を)らじけぶれる麻(あさ)をけさじ 二一 異邦人(いはうじん)もその名によるべし 二二 ここに鬼(おに)につかれたるめくらの唖(おし)なるをそのつれきたれて耶穌にきたりければいやしたまひて唖(おし)なるもののものいひ見ゆるやうにいやせり 二三 人々みなあやしみてこれダビデの子にあらずやといへり 二四 パリサイの人きゝていひけるハこの人ハ鬼(おに)のかしらベルゼブルをつかふなれバ鬼(おに)をおひいだすぞ 二五 耶穌そのおもひをしりてかれらにいひけるハすべてあひわかるゝ國(くに)ハあれすたりすべてあひあらそふ邑(むら)や家(いへ)ハたつべからず 二六 もしサタナ サタナをおひいださバおのれとあひわかるゝなりしかればその國(くに)いかでたつべきや 二七 もしわれベルゼブルによりて鬼(おに)をおひいださバ汝らの息子(むすこ)たちハたれによりておひいだすやゆゑにかれらハ汝らの裁判人(さいばんにん)なるべし 二八 もしわれ神靈(たま)によりて鬼(おに)をおひいださバ神の國(くに)汝らにきたれるなり 二九 あるひハ先(まづ)ちからつよきものを縛(しば)らざれバつよきものゝ家(いへ)にいりてその道具(だうぐ)をうばふことをえんやその後(のち)にこそその家(いへ)をうばふべけれ

三十 われとともにあらざるものハわれにそむき われとともにあつめざるものハちらすなり 三一 ゆゑに汝らにつげん すべて人ぐのおかせるつミと神とけがすことハゆるされん されどもとくの聖靈とけがすことハゆるさるべからず 三二 人の子にそむきていふものハゆるさるべし 聖靈にそむきていふものハこの世においてもまた後の世においてもゆるさるべからず 三三 あるひハ樹もよくその實もよくせよ あるひハ樹もあしくその實もあしくせよ いかにとなれバ樹ハその實によりてしらるゝなり 三四 あゝ蝮のたねよ 汝ら惡にしていかで善ことをいふべけんや それこゝろにみちたるよりくちにいふものなれバなり 三五 よき人ハこゝろによきたからよりよきことをいだし あしき人ハこゝろにあしきたからよりあしきことをいだす 三六 われ汝らにつげん 人のいひしすべてのむなしきことばハ審判の日にそれについてうちあかすべし それなんぢのことばによりてつミなしとせられ また汝のことばによりてつミありとせらるべけれバなり 三八 ときにある學者とパリサイの人こたへていひけるハ 師よ われら汝よりのしるしをミんとねがふ 三九 こたへてかれらにいひけるハ 姦惡なる世ハしるしをもとむれども 預言

者ヨナのしるしのほかしるしところれてにあたへられざるべし四〇それヨナハ三日三夜巨魚のはらのなかにありしごとく人の子も三日三夜地のなかにあるべし四一ニ子べの人この世とともに審判にたつてこの世をつみにさだむべしいかにとなれバかれらハヨナのいひふらせしによりて悔あらためありたるにこゝにヨナよりまされるものこゝにあり四二南の女王この世とともにさばきにたつてこの世をつみにさだむべしいかにとなれバかれハ地のはてよりソロモンの智恵をきくためにきたれりたるにこゝにソロモンよりまされるものこゝにあり四三悪鬼人よりいでゝかはき水なきところをまはりてやすみをもとむれどもえず四四よつてわがいでし家にかへらんといひてたちかへりきたれバ明くありし掃除してうつくしくかざりたるを見四五ついにゆきておのれよりあしき七の悪鬼をともなひ入てそこにすまるその人の終のありさまハ前よりなほあしくなるべしこのあしき世もまたかくのごとくならん四六耶蘇人々にかたれるうちにこゝにその母と兄弟そとにたちてかれとものいはんとまつを四七ある人耶蘇にいひけるハこゝにあなたの母と兄弟あなたにいはんとまつてそとにたてり四八つげしものにこたへていひたま

わが母ハたれぞまたわが兄弟ハたれぞや四九手をのばしそのでしたちにさしていひけるハみよわが母と兄弟なり五十いかにとなれバわが天にまします父の旨をおこなふものハそのものこそわが兄弟わが姉妹わが母なれ

第十三章

その日耶穌家をいでゝ海べに坐せり二おほくの人々かれにあつまりきたりけれバ耶穌舟にのりて坐しすべての人々ハきしにたてり三耶穌たとへをもつて人々にさまざまのことをかたりていひけるハみよたねまくもの蒔にいでたり四まく時にあるたねハみちのほとりにおちけれバ鳥きたりて啄ミつくせり五あるたねハつちすくなき磽地におち土うすけれバたゞちにもえいで六日いでゝやかれ根なけれバかれたり七あるたねハ棘のあひだにおちていばらそだちこれをふさぎけり八またあるたねハよき地におちてあるひハ百倍あるひハ六十倍あるひハ三十ばいみのりけり九きく耳あるものハきくべし十門徒きたりていひけるハなにゆゑにたとへをもてかれらにかたるや十一こたへていひけるハ汝らにハ天國の奥義をしらせたまへどもかれらにハしらせたまはざれバ

なり 十二 それもつものハあたへられなほあまりあるべしまたもた
ぬものハそのもつものまでもとらるべし 十三 それらハ見てみえ
ずきゝてきこえずさとらざるゆゑにわれたとへをもて
かれらにいへり 十四 エザヤのよげんに汝ハ耳にきけどもさとら
ず目にみれどもみえず 十五 それこの民のこゝろハにぶくな
りて耳ハきかず目ハとぢられその目にて見耳にてきゝ
こゝろにてさとりあらためてわれにいやされんことを
おそるとかくいへるにかなへり 十六 汝らの目ハみ耳ハきくゆゑ
に福なり 十七 いふまことなれバまことに汝らにつげんおほく
の預言者とたゞしき人ハ汝らが見るところを見んとねが
ひしども見ることをえず汝らがきくところをきかんとねが
へれどもきくことをえざりき 十八 ゆゑに汝だちたねまくもののたと
へをきけ 十九 天國のをしへをきゝてさとらざるものハあしき
ものきたりてそのこゝろにまかれたるものをうばふこれみち
のかたはらにまかれたるものなり 二十 いし場にまかれたるものハ
これをしへをきゝてたゞちによろこびてうくるもの
なり 二十一 たゞしながらおのれに根なくしてしばらくなる
ものなれバをしへのために難義あるひハせめらるゝことあ

おこるときにハそをやうにみちにつまづくものなり二二 また棘(いばら)のなかにまかれたるものハことばをきけどもこの世(よ)のこゝろづかひまたたからにあざむかるゝことがをしへをふさぎてみのらざるものなり二三 よき地(ち)にまかれたるものハこれをしへとこゝろてさとり百倍(ひやくばい)あるひハ六十倍あるひハ三十倍もみのるものなり二四 またたとへをとりてこれにしめしていひけるハ天國(てんこく)ハよきたねを播人に似(に)たり二五 人ぐいねたるうちその敵(あだ)きたり麦(むぎ)のなかにからすを麦(むぎ)とまきてさりぬ二六 苗(なへ)生(しやう)じてみのりするときからすを麦もまたあらはれたり二七 あるじのしもべきたりていひけるハ主(しゆ)よはたけにハよきたねをまかざりしかからすを麦(むぎ)あるハいづこよりぞや二八 しもべにいひけるハあだ人(びと)これをなせりとしもべあるじにいひけるハしもべらバまゐりてゆきてくさぎらんことをのぞむや二九 否(いな)おそらくハ汝らからすを麦(むぎ)をくさぎりて麦もまたともにぬかん三十 かりいれまでふたつながらそだておくべしかりいれのときこれかるものに先(まづ)からすを麦(むぎ)をとりあつめてやくやうにつかね麦をバわがくらにおさめよといはん三一 またたとへをもちらにしめしいひけるハ天國(てんこく)ハ人芥種(けしだね)をとり

てそのはたけにまきけるがごとし三二よろづのたねよりちいさきものなれどもそだつときハなのるいよりおほいなるものとなりてそらの鳥（とり）きたりてそのえだにやどるほどの樹（き）となれり三三またたとへをもつてかたりけるハ天國（てんごく）ハ婦（をんな）三斗の粉（こな）にとりいれてまつたくふくらしたる麹（かうじ）のごとし

三四耶穌たとへをもて人ゞにすべてこのことをかたりたまへまたとへにあらざれバかれらにかたりたまはざ三五これハげんしやによりていれることバにたとへをまうけて口（くち）をひらき世（よ）のはじめよりかくれたることをいひいでん

といひしにかなへんためなり三六つゐに耶穌人ゞをかへして家（いへ）にいれりそのでしこれにきたりていひけるハはたけのからす麦（むぎ）のたとへをわれらにときたまへ三七こたへてかれらにいひけるハよきたねをまくものハ人の子なり三八はたけハこの世（せ）界（かい）なりよきたねハこれ天國（てんごく）の子（こ）どもなりからすむぎハ惡魔（あくま）の子（こ）どもらなり三九それをまく敵（あだ）ハ惡魔（あくま）なりかりいれハ世（よ）のおはりなりかるものハ天（てん）のつかひらなり四十からす麦（むぎ）ハあつめて火にやかるごとくこの世のおはりにおいてかくのごとくなるべし四一人の子そのつかひらをつかハしてその

國のうちよりすべてつまづかするものとそむくことをなす人とをあつめて四二これを爐の火になげいるべしそこにてかなしみまたは齒がみをすることあるべし四三そのときただしき人ハその父の國において火のごとくかがやくべしきく耳あるものハきくべしまた天國ハはたけにかくれたるたからのごとし人これを見いだせバかくしてよろこびによりてゆきそのもてるものをことなうりてそのはたけを買ふなり四五また天國ハよき真珠をもとめんとするあきうどのごとしひとつのあたひたかき真珠を見いだせバゆきてそのもてるものをことみうりてこれを買へり四七また天

國ハ海にうちてさまざまの魚をとらふる網のごとしそれみちたるときハきしにひきあげすわりてよきものをうつはにいれあしきものをすてたり四九世のおはりにおいてもかくのごとくなるべし天のつかひたちいでてただしきもののうちよりあしきものをとりわけ五十爐の火にこれをなげいるべしそこにてかなしこと齒がみをすることあらん五一耶穌かれらにいひけるハこれらのことをさとりしやかれにいひけるハ主しかり五二耶穌かれらにいひけるハしかれバすべて天國についてをしへられたるがくしやハあたらしきものとふるきものをその庫より

いでゝ家（いへ）のあるじのごとし 五三 さて耶穌このたとへをいひおはりてそこをされり 五四 そのふるさとにいたりて その會堂（くわいどう）において人々のあやしむばかりにをしへたまひければ人々いひけらくこの人ハこの智恵（ちゑ）とふしぎなるわざハいづれよりぞや 五五 これ匠（たくみ）の子（こ）にあらずや その母（はゝ）ハマリア その兄弟ハヤコブヨセ シモンユーダといふぞや 五六 その姉妹（しまい）ハみなわれらとともならずやしかるにこの人ハすべてこれらのことハいづれよりぞや 五七 つひにかれにつひてつまづけり耶穌かれらにいひけるハよげんしやハそのふるさとゝその家（いへ）のほかに尊（たふと）まれざることなし 五八 かれら信（しん）ぜざるによりて おほくのふしぎなるわざをこゝにたなしたまはざりし

第十四章

そのとき國（くに）のわかれをおさむるヘロデ耶穌の評判（ひやうばん）をきゝて二 その家來（けらい）にいひけるハこれ洗禮（せんれい）のヨハン子なりかれよみがへりしゆゑ彼（かれ）においてふしぎなるわざをおこなへり 三 そも〳〵ヘロデその兄弟ピリツポの妻（つま）ヘロデヤのことによりてヨハン子をとらへしばりてひとやにいれたれバなり 四 そハヨハン子ヘロデにこのをんなをめとるハよろしからずといひしゆゑなり

五ヨハン子をころさんとおもひけれども民をおそれけり これ民ハヨハン子をよげんしやとおもひけれバなり 六ヘロデの誕生日をいはひしときヘロデヤのむすめその坐上に舞てヘロデをよろこばせけりゆゑにおよそもとむるところのものをあたへんとちかひて約せり 八かれハその母にすゝめられてありけれバ洗禮のヨハン子の首を盤にのせてこゝにたまはれといへり 九王うれひけれどもちかひとまたともに席上にあるものゝゆゑにあたふることを命ぜり 十すなはち人をつかはしひとやにてヨハン子の首をきらせけり 十一その首をばんにのせてむすめにあたへければむすめハこれをその母にさゝげけり 十二ヨハン子のでしきたりて尸をとりてほうむりゆきて耶穌につげけり 十三耶穌これをきゝて人をさけてさびしきところへ舟にてそこをさりけり人〴〵きゝてむら〳〵よりぞ歩行にてこれにしたがひけり 十四耶穌いでゝおほくの人を見あはれんでその病あるものをいやせり 十五日くれて そのでしきたりていひけるハこれさびしきところにてときもややおそし人〴〵をむら〳〵にゆかせて食もつをかひもとむるためにいだしたまへ 十六耶穌かれらにいひけるハゆくにおよばずなんぢら

食物(しよくもつ)をかれらにあたへよ 十七 耶穌にいひけるハわれらここにたゞ五(いつゝ)のぱんとふたつの魚(うを)のみあり 十八 耶穌それをここへもちきたれといひ 十九 草(くさ)のうへにせられしと人々に命(めい)じて五(いつゝ)のぱんとふたつの魚(うを)をとり天(てん)をあふぎて謝(しや)しぱんをさきて門徒(でし)にあたへでしハ人々にあたへけり 二十 みなくらふて飽(あき)たり十二のかごに一ぱいそのあまりたる屑(くづ)をひろへり 二一 をんなと子どものほかくらひしものハおよそ五千人なりし 二二 やがて耶穌人々をかへさうちにでしをしひて舟(ふね)にのせむかふのきしへさきにわたらしめたり 二三

さりて人々をかへしたまひけれバいのらんとてひとりにて山にのぼり日くれてひとりそこにいませり 二四 舟(ふね)ハ海中(かいちう)まで逆風(ぎやくふう)のために浪(なみ)にたゞよはされたり 二五 夜(よ)七時(なゝつどき)ごろ耶穌うみのうへをあゆみてでしにいたまへり 二六 でしそのうみのうへをあゆむを見ておどろきてこれ變化(へんげ)のものなりといひおそろしさにいりてさけびけり 二七 やがて耶穌かれらにかたりていひけるハこゝろやすかれわれなりおそるなかれ 二八 ペテロこたへていひけるハ主よもしなんぢならバわれに命(めい)じてあなたへ水(みづ)のうへをゆかしめたまへ 二九 きたれといひけれバペテロふね

よりくだり耶穌にいかんとして波（なみ）のうへをあゆみしに三十風（かぜ）のはげしきをみておそれしづみかゝりけれバさけびて主（しゆ）よわれをたすけたまへといへり三一耶穌やがて手（て）をのべてかれをとらへていひけるハ信（しん）ずるのうすきものよ三二なんぞうたがふやかれら舟（ふね）にのりけれバ風（かぜ）とゞまれり三三舟（ふね）にをりしものこらずこれをはいしてまことにあなたハ神の子（こ）なりといへり三四さてみなわたりてゲ子サレの地（ち）にいたれり三五そのところの人々耶穌をしりてそのところの四方（はう）に人をつかはしすべて病（やまひ）ものをつれきたれり三六たゞ耶穌の衣（ころも）のすそにさはることをねがへりさはりたるものハみないやされけり

第十五章

ときにヱロソルマのがくしやとパリサイの人と耶穌にきたりていひけるハあなたの門徒（でし）ハいにしへの人のつたへをやぶるハなんぞやそハ食（しよく）するときにその手（て）をあらはざれバなり三こたへてかれらにいひけるハ汝らハまた汝らのつたへによりて神のいましめをおかすハなんぞや四それ神いましめて父母をうやまへまた父母をのゝしるものハころさるべしとのたまへり五されどもなんぢら

いひけるハすべて人父母にむかひてあしきことをいひなばしぬべきもの
ハそなたへものをあたへしといひて六すでにかならず父母をうやまはずともよし
しかくて汝らハつたへによりて神のおきてをむなしくせり
七偽善しやよエザヤハよく汝らにつきて預言をしていひけるハ
八この民ハ口にてわれにちかづき唇にてわれをうやまへど
そのこころハわれよりとほざかれり九人のいましめををしへとなし
ていたづらにわれを拝むと十耶穌人々をよびてかれらに
いひけるハきゝてさとれよ十一くちにいるものハ人をけがさずくち
よりいづるものハこれこそ人をけがすなれ十二そこにでしきたりて

耶穌にいひけるハパリサイの人このことばをきゝてつまづきたるを
しりたまへるや十三こたへていひけるハわが天の父がうゑざる
ものハことごとくぬかるべしかれらをすておけめくらの手びき
するめくらなり十四もしめくらがめくらを手びきせばふたり
ともにみぞにおつべし十五ペテロ耶穌にこたへていひける
ハこのたとへをわれらにときたまへ十六耶穌いひけるハ
汝らもいまださとらざるか十七すべてくちにいるものハ腹にと
ゞまりて厠におとさるゝといまださとらざるか十八くちより
いづるものハこころよりいづこれ人をけがすものなり十九いかに

となれバこゝろよりいづる悪念凶殺姦淫好色攘竊妄謗（あくねんきようさつかんいんかうしよくじやうせつまうばう）廿これらハ人をけがすものなりされども手（て）をあらはずして食（くら）ふハ人をけがさず廿一耶穌こゝをさりてタイロとシドンの土地（とち）にゆけり廿二こゝにその土地（とち）のカナンヤのをんないでゝきたりさけびていひけるハ主（しゆ）よダビデのすゑよわれをあはれみたまへわがむすめはなはだしく鬼（おに）につかれたり廿三耶穌一言（ひとこと）もこたへざりしかバそのでしきたりこふていひけるハわれらのあとよりさけぶゆゑにこれをさらせたまへ廿四こたへていひけるハイスラエルの家のまよひし羊（ひつじ）のほかにわれハつかはされまさず

廿五をんなきたりてこれを拜（をが）していひけるハ主（しゆ）よわれをたすけたまへ廿六こたへていひけるハ子（こ）どものぱんをとりて犬（いぬ）になぐるハよからず廿七をんなハ主よさなりといふされどいぬもその主（しゆ）の膳（ぜん）よりおちたる屑（くづ）をくらふといへり廿八耶穌こたへていひけるハをんなよ汝の信仰（しんかう）ハおほいなりねがふごとく汝になるべしとすなはちそのむすめこのときよりいえたり廿九耶穌こゝをさりてガリラヤの海（うみ）べにきたりて山にのぼりて坐（ざ）せり卅おほくの人〴〵あしなへめしひ唖（おし）かたはさま〴〵のやまひあるものをともなひきたり耶穌のあしもとにおきし

かたハなるもの これをいやしたまへり 三一 こゝにおいて唖ハものいひかたハハいえ あしなへハあゆミ 目しひハみゆるを人〴〵見てあやしみ イスラエルの神をあがめたり 三二 耶穌そのでしをよびていひけるハ 人〴〵すでに三日のあいだわれとともにゐて くらふものなきゆゑにわれかれらをあはれむ おそらくハ途中にてたふれんとそれをおもひて飢してかへすことをこのまず 三三 そのでしたちいひけるハ 野においていづこよりかくおほくの人にあかしむるほどのぱんをえんや 三四 耶穌かれらにいひけるハ ぱんいくつあるやかれらいひけるハ 七とちいさき魚すこしあり 三五 地にざせよと人〴〵に命じて 三六 ぱんと魚とをとり謝してこれをさきてでしにあたへでしハ人〴〵にあたへけり 三七 みなくらふて飽たりあまりのくづを七のかごにひろひあつめたり 三八 食しものハをんなと子どものほかに四千人なり 三九 耶穌人〴〵をさらしめて舟にのりマグダラのさかひにいたりけり

第十六章

パリサイとサドカイの人きたり耶穌をこゝろみて天のしるしをみせよとこふ 二 こたへていひけるハ日くるゝときに汝らゆふやけによりてよき天氣ならんといふ

三朝(あさ)ハあさやけまたくもりによりてけふハ嵐(あらし)ならんといふ偽善(ぎぜん)者(しや)よそらのけしきをしりてときのしるしをしることあたハざるか　四姦悪(かんあく)なる世ハしるしをもとむれども預言者(よげんしや)ヨナのしるしのほかにしるしをこれにしめされずとてかれらをすてられてさりたまへり　五そのでしむかふのきしにいたりしにぱんをたづさへるをわすれたり　六耶穌かれらにいひけるハパリサイとサドカイの人の麴(かうじ)をつゝしんでこゝろをつけよ　七でしたちたがひに論(ろん)じていひけるハこれぱんをたづさへざりしゆゑなりと　八耶穌これをしりていひけるハ信(しん)ずるのうすきものよなんぞぱんをたづさへざりしをたがひに論(ろん)ずるや　九いまださとらざるか五千人に五のぱんをあたへていくかごひろひしか　十また四千人に七のぱんをあたへていくかごひろひしことをわすれたるか　十一パリサイとサドカイの人のかうじをつゝしめといひしハぱんにつきていひしにあらざるをいかにさとらざるや　十二こゝにおいてでしかうじをつゝしむにあらずパリサイとサドカイの人のをしへをつゝしめとかたりしをさとれり　十三耶穌ピリツポのカイサリヤのさかひにいたりてそのでしにとふていひけるハ人〴〵ハ人の子をたれといふや　十四かれらいひけるハあるひとハ洗禮(せんれい)をなすヨハンネあるひとハエリヤ又(また)エレミヤ

あるひハ預言者（よげんしや）のひとりなりといへり 十五 かれらにいひけるハ汝らハわれをたれといふや 十六 シモンペテロこたへていひけるハあなたハキリストいける神の子なり 十七 耶穌こたへてかれにいひけるハシモンヨナの子汝ハさいはひなりいかにとなれバそれ血肉（けつにく）汝にしめしにあらず天にましますわが父なり 十八 われまた汝につげん汝ハペテロなりわが集會（あつまり）をこの石（いし）のうへにたつべし黄泉（よみ）の門（もん）ハこれにかつべからず 十九 おのれ天國（てんこく）の鑰（かぎ）を汝にあたふ汝が地（ち）にさだむることハ天にさだめられまた汝が地（ち）にとくことハ天にとかるべし 廿 こゝにおいてでしにわれハ

キリストなる耶穌と人につぐるをいましめたまへり 二一 このときより耶穌はじめてそのでしにわれかならずエロソルマにゆきて長老（ちやうらう）祭司（さいし）のをさがくしやよりおほくのくるしみをうけ且（かつ）ころされ三日（みつか）めによみがへることをしめしたまへり 二二 ペテロ耶穌をおさへていさめいひけるハ主（しゆ）よあなたしにあはれみてあらせたまへこれあなたにもつべからず 二三 耶穌ふりかへりてペテロにいひけるハサタナよわがうしろへのけ汝ハわれにつまづくものなりそれ汝ハ神のことをおもはずかへつて人のことをおもふ 二四 このとき耶穌そのでしにいひけるハもしわれにしたがはん

とおもふものハおのれをすてゝその十字架を負ひて我にしたがふべし 二五 いかにとなれバそのいのちをすくはんとおもふものハこれをうしなふべけれバなりまたわがためにそのいのちをうしなふものハこれをうべし 二六 いかにとなれバもし人あまねく世界をまうくるともそのいのちをうしなはゞなんの益あらんやまた人なにをもつてそのいのちにかへんや 二七 それ人の子その父の威光をもつてそのつかひたちとともにきたらんとすそのときそのおこなひによりておの〳〵にむくふべし 二八 まことに汝らにつげんこゝにたてるもののうち人の子その國にきたるをみるまで死なざるものあるべし。

第十七章

六日の後耶穌ペテロヤコブおよびその兄弟ヨハ子をともなひ人をさけてたかき山にのぼりたまひて 二 かれらのまへにおんすがたかはりおん面日のごとくかゞやきおんころもひかりのごとくしろくなれり 三 ときにモーセとエリヤ耶穌とものがたりてかれらにあらはれたり 四 ペテロこたへて耶穌にいひけるハ主よわれらこゝにあるハよしこゝろにかなはゞこゝにひとつく主のためにひとつハモーセのためにひとつハエリヤのために三のいほりを

こゝにつくらせたまへと五かくいふほどにきよくかゞやける雲かれらをおほひぬこゝに雲よりこゑありていひけるハこれハわが心にかなふわが愛子なり汝らこれにきくべしと六でしこれを聞うつむきたふれおほひにおそれし七耶穌きたりてかれらにさはりておきよおそるゝなかれといひければ八その目をあぐるにたゞ耶穌のほかひとりも見ざれ九山をくだるほどに耶穌かれらに命じて人の子よみがへるまで汝らのみしことを人につぐべからずといへり十そのでしとふていひけるハさらバなんぞ學者ハエリヤまさにきたるべしといふや十一耶穌こたへていひけるハ實にエリヤハまさにきたりて萬事をあらたむべし十二しかしわれ汝らにつげんエリヤハはやくきたりしに人これをしらずしてそのおもふまゝをこれになせりかくのごとく人の子もおなじく人よりくるしめられんとす十三そこにおいてでし洗禮をほどこすヨハン子をさしていはれしをさとれり十四かれてハおほくの人々にきたるにある人耶穌にきたり膝まづいて十五いひけるハ主よわが子をあはれみたまへいかにとなれバてんかんにてをり〱火にも水にもたふれてくるしめり十六これをあなたのでしに

つれゆけどもいやすことあたはざりき 十七 耶穌こたへていはく 信(しん)なきもののまがれる世(よ)ぞ いつまでわれなんぢらとともにをらんや いつまでわれ汝らをしのばんや 十八 これにそれをつれきたれといへり 耶穌鬼(おに)をいましめたまへりたちまち鬼(おに)かれよりいでて その子(こ)そのときよりいえたり 十九 そのときでしひそかに耶穌にきたりていひけるは われらそれをおひいだすことあたはざりしはなんぞや 廿 耶穌かれらにいひけるは 汝ら信(しん)なきゆゑなり いかにとなればまことに汝らにつげん もし芥子(からし)だねほどの信(しん)ずることあらば この山にこゝよりかしこへうつれといふともうつるべし また汝らにあたはざることなかるべし 廿一 しかしながらこのたぐひはいのりと断食(だんじき)にあらざればいづることなし 廿二 ガリラヤとめぐるとき耶穌でしに人の子(こ)人の手(て)にわたされんとす 廿三 ころされて三日(みか)めによみがへるべしといひければ でしはなはだかなしめり 廿四 カペナオムにきたるときみつぎをうけとるものどもペテロにきたりていひけるは 汝らの師も奉納金(ほうなふきん)をおさめざるや 廿五 しかりとぞいひてペテロ家(いへ)にいりしとき耶穌まづかれにいひけるは シモン汝はいかにおもふや 世界(せかい)の王(わう)たちは

運上や人税をとれるやおのれの子どもよりかよそのものよりかと 二六 ペテロかれにいひけるハほかの人よりとる 耶穌かれにいひけるハされバ子どもハ自由なり 二七 しかしながらかれらをつまづかせざるためになんぢ海にゆきて鉤をたれさきにつる魚をとりてその口をひらかバ金のとうをうべし これをとりてわれと汝のためにかれにあたふべし

第十八章

そのときでし耶穌にきたりていひけるハ天國にておほひなるものハたれぞや 二 耶穌をさな子をよびかれらのうちに 三 たゝせていひけるハまことに汝らにつげん もしあらたまりてをさなごのごとくならずんバ天國にいることをえず 四 ゆゑにすべてこのをさなごのごとくおのれをへりくだるものハこれこそ天國にておほひなるものなれ 五 またわが名のためにかくのごときひとりのをさなごをうくるものハわれをうくるなり 六 しかしわがことを信ずるひとりのこのちいさきものをつまづかするものハひき臼をくびにかけて海のふかみにしづめらるゝことこそこのものに益なるべし 七 つまづかすることハこの世のわざはひなるかな つまづかするハ余義なけれバなり さり

されどつまづかせる人にわざはひハあるべし 八 もし汝の手（て）またハ足（あし）おのれをつまづかせるならバこれをきりてなげすてよ 両手（りやうて）両足（りやうあし）ありてつきざる火（ひ）になげいれられんよりハあしなへまたハかたハにて生（いのち）にいるハよし 九 もし汝の眼（め）おのれをつまづかせるならバこれをぬきいだしてなげすてよ 両目（りやうめ）ありて地（ぢ）ごくの火（ひ）になげいれられんよりハかためにていのちにいるハよし 十 汝らこのちいさきひとりのものをあなどらざるやうにつゝしめ それ汝らにつげん 天（てん）にありてその使（つかひ）たち天（てん）にましますわが父（ち）のかほをつねにみればなり 十一 それ人の子ほろびたるものをすくはんためにきたれバなり 十二 汝らいかにおもふや もし人百ひきの羊（ひつじ）をもちてその一疋（いつひき）まよはゞ九十九を山にのこしゆきてまよひしひとつをたづねざるか 十三 もしこれにあはゞまことに汝らにつげん まよはざる九十九のものよりもそのひとつのものをよろこばん 十四 かくのごとくこのちいさきもの〻ひとりほろぶるハ天（てん）にまします汝らの父のこゝろにあらざるぞ 十五 さればもし兄弟汝につみをおかさバゆきて汝とかれとのみありていさめよ もし汝のことばをきかバ兄弟を挽回（ひきかへす）べし

十六 もしきかずんバ二三の證據人のくちによりてことごとくいふことをさだめんためにほかのひとりふたりをつれゆくべし十七 もしかれらをきかずんバ公會につげよ又もし公會にてもきかずんバかれを異邦人ゝとつざいにんのごとくさをのとせよ十八 まことに汝らにつげん およそ汝らが地にむすぶことハ天にむすばん およそ汝らが地にとくことハ天にとかれん十九 またさ汝らにつげん もし汝らふたり地にてあひあはせてなにものをもとめバ天にましますわが父よりかなへてこれになさるべし二十 それわが名によりて二人三人あつまりたるところハわれもそのうちにあればなり二十一 そのときペテロ耶穌にきゝたりていひけるハ主よわが兄弟われにつみをおかしてゆるすべきハいくたびまでぞ七たびまでか二十二 耶穌かれにいひけるハ汝にいはく七たびまでといはず七十倍までといふなり二十三 このゆゑに天國ハ家來の勘定をあらためんとおもへる王なる人にたとへられたり二十四 あらためはじむれバ千萬金のひきおひしたるものを王にひきいたりしかるにつくなふところなきによりてその君その家來とその妻子あらゆるもちものをうりてつくのへと命じたり

二六 ゆゑに家來ひれふしていひけるハ君これをあはれみたまハバみなつくなふべし 二七 しかるときその家來の君あはれみてこれをときそのひきおひをゆるせり その家來いでゝおのれに百目のひきおひしたる友にあひけれバこれをとらへ咽をとりひきおひをかへせといひけれバその友あかゝたふしてこれにねがふていひけるハこれをあはれみたまハバみなつくなふべしとされどもうけがハずしてゆきひきおひをつくなふまでこれをひとやにいれてけり 三一 されバその友そのなせしことをみて[illegible]ゆきてなせしことをみなその君にまうせり 三二 こゝにおいて君これをよびていひけるハあしき家來なるかな汝ハわれにねがひしとき[illegible]汝のひきおひをゆるしたり 三三 われ汝をあはれむごとく汝もまた友をあはれむべきことならずや 三四 その君いかりてひきおひをみなつくなふまでこれをひとや人にわたせり 三五 もしおの〱こゝろより兄弟のあやまちをゆるさずんバ天のわが父もまた汝らにかくのごとくなしたまふべし

第十九章

第十九章

耶穌このことをいひおハりしときガリラヤをさりてヨルダンのむかふユダヤのさかひにいたりけるに二おほくの人々かれに志たがひしかバそこにてこれらをいやしたまへり三パリサイの人きたりて耶穌をこゝろミいひけるハ人なにのゆゑにてもその妻(つま)をいだすハよきや四こたへてかれらにいひけるハ元始(はじめ)より人をつくりしものこれを男女(なんによ)につくりたまひし五このゆゑに人父母をはなれてその妻(つま)につき二人(ふたり)のもの一體(いつたい)となるべしといひしことをいまだよまざるか六されバはやふたりにあらで一體(いつたい)なりゆゑに神のあはせしものを人はなすべしとぞ七耶穌にいひけるハもししかバモーセハ離縁状(りえんじやう)をあたへて妻(つま)をいだすべしと命(めい)じたるハなんぞや八かれらにいひけるハモーセハ汝らのこゝろのつよきによつて妻(つま)をいだすことをゆるせりされどもはじめハかくのごとくあらざりし九われ汝らにつげん されバその淫事(いんじ)のゆゑならずしてその妻(つま)をいだしほかの婦(をんな)をめとるものハ姦淫(かんいん)をおかすなりまたいだされたる女(をんな)をめとるものも姦淫をおかすなり十そのでし耶穌にいひけるハもし人つまにおいてかくのごとくならバめとらざるにしかずと十一かれらにいひけるハさづけられたるものにあら

ざれバ人みなそのことバをきゝいるゝことあたハず十二 それ母のはらよりうまれつける寺人（どじん）ありまた人より寺人（どじん）にされたるものまた天國（てんごく）のためにおのれより寺人になりたるものありよくきゝいるゝものハこれをきゝいるべし十三 そのとき手（て）をつけていのらんがために耶穌につれきたるおさなき子（ご）あり門徒（でし）これをとがめたり十四 耶穌いひけるハおさなごをゆるしてわれにきたるをきんずるなかれそれ天國（てんごく）のものハかくのごときをさのなすまゝなり十五 ちいさきちこれに手（て）をつけてそのところをさりぬ十六 こゝにあるものきたりてまへにいひけるハよきかな

師やわれかぎりなきいのちをえんためになんのよきことをなすべきや十七 かれにいひけるハなんぢわれをよきといふハなんぞやひとりの神のほかなるハよきものあらず もしいのちにいらんとおもハゞいましめをまもるべし十八 耶穌にいひけるハなにをぞや耶穌いひけるハころすべからず姦淫（かんいん）すべからずぬすむべからずいつハりの證據（しようこ）をたつべからず父母をうやまへまたおのれのごとく隣（となり）のものをいつくしむべし二十 わかきものかれにいひけるハこのことハわれいとけなきよりみなまもれりなほなにゝかけることありや二十一 耶穌かれにいひけるハもしまつたきをとつく

さんとおつせバゆきて汝が所持のものをうりてまづしきものにほどこせそうすれバ天に財をもつべし且きたりてわれにしたがへ 二二 わかきものそのいひたることをきゝてうれひてさりぬそれハおほいなる身上をもてバなり 二三 耶穌そのでしにいひけるハまことに汝らにつげん富めるもの天國にいることかたしまた汝らにつげん富めるもの神の國にいるよりも駱駝針の孔をとほることハなほやすきなり 二五 でしこれをきゝていたくおどろきていひけるハしからバたれかすくはるべきぞや 二六 耶穌かれらをみていひけるハ人間にハあたはざることまて神にハあたはざることなし 二七 そのときペテロこたへて耶穌にいひけるハみよわれらハすべてをすてゝ貴君にしたがへりなにをうべきや 二八 耶穌かれらにいひけるハまことに汝らにつげんわれにしたがひし汝らハ世のあらたまるとき人の子そのいつくしきくらゐにざし汝らもまたイスラエルの十二の支流を支配して十二のくらゐにざすべし 二九 わが名のためにあるひハ家あるひハ兄弟あるひハ姉妹あるひハ父あるひハ母或ハ妻或ハ子あるひハ田をすてしものハ百倍をうけ且かぎりなきいのちをつぐべし 三〇 おほくの先のものハあとになりあとのものハさきになるべし

第二十章

それ天國ハ朝はやく葡萄ばたけにはたらくものをやとひにいでたる主人に似たり二 はたらくものに一日に金ひとつをあたへんと約束してこれらを葡どうばたけにつかはせり三 また九字ごろいでてまちにひまにてたちたるものをみて四 かれらに汝らもまた葡どうばたけにゆけ相當のあたひをあたへんといひけれバかれらもまたゆけり五 また十二字三字ごろいでてまへのごとくなせり六 五字ごろいでてみるにひまにてたちたるものにあひかれらにいひけるハ終日ひまにてここにたつハなんぞや七 かれらいひけるハわれらをやとふものなきゆゑなりとかれらにいひけるハ汝もまた葡どうばたけにゆきて相當の價をうくべし八 日くれにぶどうばたけのあるじ家のをさにいひけるハはたらくものをよびてあとのものよりはじめてさきなるものまでこれにあたひをとらすべしと五字ごろにやとはれしものどもきたりて金ひとつづつをうけたりそのはじめのものどもきたりてかれらハおほくうくるならんとおもひしにまた金ひとつをうけたりこれをうけてあるじにつぶやきていひけるハそのあとのものハ一時ばかりはたらきたるに終日の苦勞と

暑にあひたるわれらとひとしくこれをなせり そのひとりに
こたへていひけるハ友よわれ汝に無理をなさず われと金ひ
とつのやくそくをなさざりしや 汝のものをとりてゆけ[illegible]
汝のごとくこのあとのものにもあたふべし 十五 わがものをもつて
おもふごとくになすことハよろしからずや われよきによつて汝の眼あ
しきか 十六 かくのごとくあとのものハさきにあり さきのものハ
あとにあるべし それよばるゝものハおほしといへども撰まるゝも
のハすくなし 十七 耶穌エロソルマにのぼるとき途中にて人をさけ
て十二でしをともなひまたいひけるハ 十八 みよわれらエロソルマに
のぼり人の子祭司のをさとがくしやにわたされてかれらこれを
死罪にさだむ 十九 なぶりむちうち十字架につけんために異國
人にわたされんまた三日めによみがへるべし 廿 そのときゼベダイ
の子らの母その子らとともに耶穌にきたり拝しものを
もとむることあり 廿一 耶穌かれにいひけるハなにをのぞむや
かれにいひけるハこのふたりの子をあなたの國において一人
ハあなたの右一人ハ左に坐することをねがふ 廿二 耶穌こたへていひ
けるハ汝らハねがふところをしらず 汝らハわがのまんとする
さかづきをのみまたわがうけんとする洗禮をうくべきや

まうして耶穌にいひけるハよくなすべし 二三 耶穌かれらにいひけるハ汝らたしかにわがさかづきをのみわがうくる洗禮をうくべししかしわが右左に坐することハわがまゝにあたふるにあらずたゞわが父よりそなへられたるものにあたへらるべし 二四 十人のでしこれをきゝてふたりの兄弟をいきどほれり 二五 耶穌かれらをよびていひけるハ異邦の領主ハその民をつかさどり大なるものどもハ權をもつてかれらを支配す 二六 しかしながら汝らのうちハさにあらじ汝らのうちおほいならんとおもふものハ汝らのつかへびととなるべし 二七 また汝らのうち首ならんとおもへるものハ汝らのしもべとなるべし 二八 人の子も人をつかふためにあらずかへつて人につかへまたその生命をすてゝおほくの人にかはりてあがなひとならんためにきたれるがごとし 二九 かれらエリコをいづるときおほくの人々耶穌にしたがへり 三十 さてみちのかたはらにすわりゐるふたりの目しひ耶穌のすぐるときゝてさけびていひけるハ主やダビデの子われらをあはれみたまへ 三一 人々だまるべしとかれらをいましめけれどもなほおほいにさけんでいひけるハ主やダビデの子われらをあはれみたまへ 三二 耶穌たちどまりこれをよびていひけるハわれ汝らになにを

あきらんとねがふや 三三 耶穌にいひけるハ主やわれらの目のひらん
ことをねがふ 三四 耶穌あはれみてその目に手(て)をつけしにたちま
ちその目ひらきけれバ耶穌にしたがへり

第二十一章

さてエロソルマにちかづき撖欖山(えらんざん)のベツパゲにいたるとき耶穌
ふたりのでしをつかはして 二 これにいひけるハ汝らの對(むか)ふむらに
ゆけよつなげる驢馬(ろば)とその子のともにあるをやがてみん
それをときてわれにひききたれ 三 もし汝になにとかいふも
のあらバ主の入用(いりよう)ありといふべしさすれバすぐにこれをつか
ハすべし 四 よげんしやのいひたることに汝の王(わう)柔和(にうわ)にして驢馬(ろば)
の子(ご)にのり汝にきたるとシヲンの女(むすめ)につげよと 五 いひしにかなふ
やうになりき 六 門徒(でし)ゆきて耶穌の命(めい)ぜしごとくなし
七 驢馬(ろば)とその子をひききたりおのれがころもをそのうへにおき
耶穌をこれにのらしむ 八 人ぐんおほくハその衣(ころも)をみちにしき
あるひハ樹(き)のえだをきりてみちにしきたり 九 且(かつ)まへにゆきあと
にしたがふ人ぐんよびていひけるハダビデの子(ご)ホザナよ主(しゆ)の名によりて
きたるものハ讃美(ほまる)べしいとたかきところにホザナ 十 耶穌
エロソルマにいりしときさハぎていひけるハこれハ

たれぞや 十一 人々これハガリラヤナザレのよげんしや耶穌なりといへり 十二 耶穌神の殿にいり殿のうちに賣買するものをおひ出し兌銀者の臺および鴿をうるものゝこしかけをたふし 十三 かれらにいひけるハわが家ハ祈禱のいへととなへらるべしとしるされたまひつるを汝らこれを盗賊の巣となせり 十四 瞽者あしなへの人々殿にて耶穌にきたれバかれらをいやせり 十五 祭司のをさたちと士子たちそのなせしふしぎなることゞもと童子の殿にてよばゝりてダビデの子ホザナよといふを見ていかりをふくみて 十六 耶穌にいひけるハこれらのいふところをきくや耶穌かれらにいひけるハしかりをさなごおよび乳哺の口よりほむるをそなへしとしるされしといまだよまざるかと 十七 かれらをのこしてそとへはなれ城下をいでてベタニヤにゆきそこにやどりけり 十八 朝城下にかへるとき飢けれバ 十九 道のかたはらにひとつの無花果の樹を見てそこにきたるに葉のみにて樹になにもみえざりけれバいまよりのちいつまでも果をむすぶことかなふまじと樹にいひけれバ無花果たちどころにかれぬ 廿 門徒見てあやしみいひけるハいちじくのかれしことハいかにすみやかなり 廿一 耶穌こたへてかれらにいひけるハまことに汝らにつげんもし

信ありてうたがはずんバこのいふごとくなりけるがごとくそのごと
なんぢこの山にうつり海にいれといふともなるべし 二二 且
汝ら祈禱ときに信じてねがふことことごとく得べし 二三 耶穌
殿にいりてをしゆるとき祭司のをさたちおよび民の
長老などきたりていひけるハなんぢの權威をもてこのこと
をするや又たれがこの權威を汝にあたへたる 二四 耶穌こた
へてのたまひけるハわれも一言汝らにとはんこれにその
こたへをつぐるならバわれもなにのけんいをもてこれをなす
といふことを汝らにいはん 二五 ヨハン子の洗禮ハいづくよりぞや

天よりか人よりかかれらたがひに論じていひけるハもし天
よりといはゞさらバなんぞこれを信ぜぬやといはん 二六 もし人
よりといはゞ民をおそるこれみなヨハン子をよげんしや
とおもへバなり 二七 ものたち耶穌にこたへてしらずといへり耶穌
かれらにいひけるハわれもなにの權威をもてこれをなす
を汝らにいはじぞ 二八 汝らいかゞおもふやある人子ふたり
ありしが長子にきたりていひけるハ子や今日わが葡萄
ぞのにゆきてはたらけよ 二九 こたへてわれハゆかじと
いひしがのちにくいてゆきし 三十 また弟にきたりまへのごとく

いひけるにこたへて主よわれゆくべしといひけれどもゆかざりし 三一 このふたりのもののうちいづれか父のむねをなせしやかれらいひけるハ兄なり耶穌かれらにいひけるハまことに汝らにつげん税吏および遊女ハ汝らより先に神の國にいるべし 三二 これヨハネたゞしき道より汝らにきたりしにこれを信ぜざりきみつぎとりおよび遊女ハこれを信ぜり汝らこれを見てもかれを信ぜざるやうにのちにくいあらためざりし 三三 ほかのたとへをきけある家のあるじ葡萄ばたけをうゑまがきをめぐらしそのうちに酒搾をほり塔所をたてて農夫にかして遠方へゆきしが 三四 果期ちかづきけれバその果をとらんために農夫のもとへしもべをつかはせり 三五 農夫どもそのしもべどもをとらへひとりをむちうちひとりをころしひとりを石にてうてり 三六 またほかのしもべどもをまへよりもおほくつかはせしにかれらにもまへのごとくなせり 三七 つひにわが子をバうやまふなるべしといひてその子をかれらにつかはせしが 三八 農夫どもその子を見てあひかたらひにいひけるハこれハあとつぎなりいざころしてその畑地をもとるべしと 三九 すなはちこれをとらへて葡萄ばたけのそとおひいだしてころせり 四十 ぶだうばたけのあるじきたらん

ときにその農夫になにとせんや 四一 耶穌にいひけるハこのくあげざしきものどもをくあげざしくうちほろぼして葡萄ばたけをみのるときその果をおさむるほかの農夫にかすべし 四二 耶穌かれらにいひけるハ聖書に家つくりのすてたる石ハ屋のすみの首石となれるこれ主のなしたまふところにしてわれらの目にあやしむことなりとあるをいまだよまざるや 四三 ゆゑにわれ汝らにつげん神の國ハ汝らよりうばゝれその果をむすぶ民にあたへたまふべし 四四 この石のうへにたふるゝものハくだかれこの石その上におちなバそのものをおしつぶさん 四五 祭司のをさたちおよびパリサイの人がたとへをきゝておのれらをさしていへるとさとりて 四六 耶穌をとらへんとおもへれどもぐんしうを預言しやとおもふによりておそれしなり

第二十二章

耶穌またたとへをとりてかれらにこたへていひけるハ 二 天國ハある王たる人その子のために婚禮をなせしごとし 三 こんれいにまねきしものをむかへんためにそのしもべをつかハせどもきたるをこのまず 四 またほかのしもべをつかハしていひ

けるハみよわがふるまひそなへたりわが牛も肥（こえ）たる畜（けもの）をほふりてことごとくそなへけりされバこんれいにきたるべしとまねかれしものにいへ 五 されどかれらこのつげをかろんじてさりゆきひとりハおのれの畑（はたけ）にゆきひとりハおのれの商賣（しやうばい）にゆけり 六 そのほかのものどもハしもべどもをとらへてはづかしめてころせり 七 王（わう）これをきゝていかり軍勢（ぐんぜい）をつかハしてそのころせしものをほろぼしまたその邑（むら）を焼（やき）たり 八 そのときそのしもべにいひけるハふるまひそなへたれどもまねかれしものハ客（きやく）とするにたらざるものなれバ 九 ちまたにゆきあふほどのものをふるまひにまねけよ

十 そのしもべらちまたにいでゝよきものもあしきものもかまハずあふほどのものことごとくあつめければふるまひの客（きやく）充満（じうまん）せり 十一 王（わう）客をみんとていりけるにそこにひとり禮服（れいふく）を衣（き）ざる人をみて 十二 友（とも）やいかんぞ禮服（れいふく）をきずしてこゝにいるやといひければかれ默然（もくねん）たり 十三 ときに王（わう）しもべにかれの手足をしばりてそとの幽暗（くらき）になげいだせそこにてなげき歯（は）がみをすることあるべしといへり 十四 それよばるゝものハおほしといへどもえらまるゝものハすくなし 十五 そのときパリサイの人いでゝいかにしてかかれをいひあやまらせんとあひはかりて

十六 そのでしとヘロデのともがらとをつかはせけるハ師やわれらなんぢハまことあるものにてまことに神のみちををしへまたたれをもはゞからざるをしれりこれ人のかほを見ざればなりされバ人税をカヒサルにおさむるハよろしきやあしきやなんぢいかでおもへるやわれらにつげたまへ 十八 耶穌そのあしきをさとりていへるハ偽善者よなんぞわれをこゝろむるや 十九 人税の金子をわれにみせよといひけれバ銀銭のひとつを耶穌にもちきたれり 廿 かれらにいひけるハこの像と號ハたれぞや 二一 カヒサルのなりとまうしけれバそのときかれらにいひけるハされバカイサルのものハカイサルにかへし神のものハ神にかへすべし 二二 かれらこれをきゝてあやしみ耶穌をさけてさりぬ

二三 その日によみがへることハなしといへるサドカイの人耶穌にきたりとひて 二四 いひけるハ師よモーセのいへるに人子なくして死ぬれバその兄弟その妻をめとり子を生せ兄弟のあとをつぐべしと 二五 それわれらのなかに兄弟七人ありし長なるものめとりて死し子なけれバそのつまを弟におくまり 二六 その二その三その七までみなかくせり 二七 のちつひにをんなもまた死せり 二八 よみがへるときハ七人のうちたれの

つまとなるべきや これみなかれをめとりしものなれバなり 二九 耶穌こたへてかれらにいひけるハ なんぢら聖書をも神のちからをもしらざるによりてあやまれり 三十 それよみがへるときハ娶らず嫁がず神の天にあるつかひたちのごとし 三一 死せしものゝよみがへることにハ汝らに神のつげたまひしことバに 三二 われハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるをいまだよまざるか それ神ハ死せしものゝ神にあらずいけるものゝ神なり 三三 人々きゝてそのをしへにおどろきたり 三四 パリサイの人耶穌のサドカイの人を閉口させるときゝてひとつところにあつまりしに 三五 そのうち教法師なるものひとり耶穌をこゝろみんためにとふていひけるハ 三六 師やおきてのうちおほひなるいましめハいづれぞや 三七 耶穌かれにいひけるハ汝こゝろをつくし精神をつくし智恵をつくし汝の神なる主を愛すべし 三八 これハ第一にしておほひなるいましめなり 三九 第二もこれにおなじくなんぢの身のごとく汝の隣を愛すべし 四十 すべてのおきてと預言ハこのふたつのいましめにかゝれり 四一 パリサイの人あつまりたるとき耶穌かれらにとふていひけるハ 四二 汝らキリストについて

いふにおもふやたれの子なるやとかれら耶穌にいひけるハダビデの子なり 四三 かれらにいひけるハさらバダビデ聖靈に感じてかれを主とよべるハいかんぞダビデのいひけるに 四四 主わが主にいひけるハわれ汝の衆敵を汝の足ぶミとするまでわが手の右に坐すべしとされバダビデかれを主とよべれバいかゞしてその子にあるや 四六 ひとりでも一言も耶穌にこたゆるなくさうしてまたその日よりのちハあへてかれにとふものなかりき

第二十三章

そのとき耶穌人々とでしにつげていひけるハ 二 士子とパリサイの人ハモーセの位に坐す 三 ゆゑに[illegible]すべて汝らにいふことをまもりておこなふべしされどかれらのおこなひのごとくならふことなかれいふとなれバかれハ唱ふるのみにしておこなふことなけれバなり 四 またかれハおもくしてかつぎがたき荷をくゝりて人の肩にかつがすれどもおのれハひとつの指にてこれをうごかすことをこのまず 五 かれらのおこなひハすべて人にみられんためにおこなふその佩犢とくゞひろくしその衣の裾をおほくしさまゝふるまひの

上座會堂の高坐七市街のあいさつ人よりラビラビと
よばへらるゝことをこのむ八汝らハラビのよばへをうくること
なかれいかにとなれバ汝らの主ハひとりすなはちキリストな
り汝らハみな兄弟なり九また地にあるものを父ととなふる
ことなかれ汝らの父ハひとりすなはち天にいますものな
り十また主のとなへをうくることなかれいかにとなれバ
汝らの主ハひとりすなはちキリストなり十一汝らのうちお
ほひなるものハ汝らのしもべとなるべし十二みづからをたかぶる
ものハひくゝなるべしまたみづからをひくゝするものハたかく
なるべし十三嗟呼汝らわざはひなるかながくしやとパリサイの人
偽善者よいかにとなれバそれ天國を人のまへにとぢて
おのれもいらずしていらんとするものをもいらしめざれバ
なり十四嗟呼汝らわざはひなるかながくしやとパリサイの人偽善
者よいかにとなれバ寡婦の家を并呑しいつはりてながき
いのりをなすこれによりて汝らハいよいよおもき刑罰をうく
べけれバなり十五あゝ汝らわざはひなるかながくしやとパリサイ
の人偽善者よいかにとなれバわが宗旨にひとりでもひき
いれんために海陸をめぐりうれすでにひきいるれバ汝ら

よりなほ倍してこれを地獄の子となせり 十六 あゝ汝らわざはひなるかな瞽者なる手ひきよ そのいくどにいわれまする殿をさして誓ものハちがひなせど殿の金をさしてちかふものハそむくべからずといへり 十七 おろかにしてめしひなるものよたふときものハ金なるか金を清浄にするの神殿なるかいづれぞや 十八 またいわれまする祭の壇をさしてちかふものハちがひなしせどそのうへのそなへものをさしてちかふものハそむくべからずといへり 十九 おろかにしてめしひなるものよたふときものハそなへものかそなへものを清浄にする祭の壇なるかいづれぞや 二十 ゆゑにまつりの壇をさしてちかふものハまつりの壇およびすべてそのうへにあるものをさしてちかふなり 二十一 また神殿をさしてちかふものハみやおよびそのうちにいますものをさしてちかふなり 二十二 また天をさしてちかふものハ神のみくらおよびそのうへに坐ものをさしてちかふなり 二十三 あゝ汝らわざはひなるかながくしやとパリサイの人偽善者よいかんとなれバ薄荷茴香馬芹の十分の一をとりておさめおきそのもつともおもんずべきもの義と仁と信とを汝らこれをすつこれをおこなふべきものなりかれもすてざる

べかりしものなり 二四 めしひの手ひきよ かうふりを濾て出し駱駝をのむものなり 二五 汝らさかづき盤の外をきよくしうちにハむさぼるものと淫欲なるものにてみてり 二六 めしひなるパリサイの人よ杯と盤のそとをきよくなさんためにまづそのうちをきよくすべし 二七 あゝ汝らわざはひなるかながくしやとパリサイの人偽善者よいかにとなれバしろくぬりたる墳墓にたりそとハうつくしく見えうちにハ骸骨とさまざまのけがれにてみてり 二八 かくのごとく汝らもまた外にハ人にたゞしく見えうちにハ偽善と不法にてみてり 二九 あゝ汝らわざはひなるかながくしやとパリサイの人偽善者よいかにとなれバよげんしやの塋をたて義人の石牌をかざり 三十 いふわれらもし先祖のときにありしならバ預言者の血をながすに荷擔せざりしものをと 三一 されバ汝らハよげんしやをころせしものゝ子なることを汝らみづからそむきて證據するなり 三二 汝らの先祖の量度をみたせよ 三三 蛇蝮のたぐひぞ汝らいかで地獄の刑罰をまぬかれんや 三四 このゆゑにわれ預言しやと智者と士子を汝らにつかはすそのうちあるひハころし十字架につけあるひハ會堂にむちうちむら〳〵において

おひくだしめん 三五 かく義あるアベルの血より殿とまつりの壇のあひだにてころせしバラキアの子なるザカリヤの血まで土にながせし義あるものの血ハみな汝らにむくひきたるべし 三六 まことに汝らにつげん このことみなこの代にむくひきたるべし 三七 あゝエロソルマよエロソルマよげんしやをころし汝につかはさるゝものを石にてうつものなるぞ 牝鶏雛をつばさのしたにあつむるごとくわれ汝の子どもをあつめんとおもひしこといくたびぞや されど汝ハこのまざりき 三八 みよ汝らの荒家ハ汝らにのこさるゝなり 三九 われ汝らにつげん 主の名によりてきたるものハさいはひなりといふときにいたるまでハいまよりのちふたゝびわれをみざるべし

第二十四章

耶穌神殿よりいでてゆきけるにそのでし神殿の宇をかれにみせんとてきたれバ 二 耶穌かれらにいひけるハこのものをみな見ざるか まことに汝らにつげん 石のうへの石も圮されずにハのこるまじ 三 耶穌撤欖山に坐せるとき門徒人をさけてきたりいひけるハいつそのことあらんやまた主のきたるとよのおはりのしるしハいかなるやしめしたまへ 四 耶穌こたへて

こたへていひけるハ人汝らをあざむかぬやうにつゝしめよ五いかにとなれバおほくの人わが名によりてきたりわれハキリストなりといひておほくの人をあざむくべし六また汝ら軍といくさの風聞をきくべしされどもおそれざるやうにつゝしめよこれハやむことえざるものなれバなりさりながら終いまだいたらず七いかにとなれバ民ハ民とせめ國ハ國とせめ飢饉疫病地震所〻にあるべけれバなり八これハわざはひのはじめなり九そのとき人汝らをなやミにわたしころすべしまた汝らわが名のために萬民に惡まるべし十そのときおほくのものつまづかされたがひにわたしたがひにうらむべし十一偽預言者おほくおこりておほくの人をあざむくべし十二不法のさかんなるによりておほくの人の愛情ひやゝかなるべし十三されどおはりまでしのぶものハこれぞすくはるべし十四また天國のこの福音を萬民に證據となさんためにあまねく天下にいひひろめられんそのゝちおはりいたらん十五ゆゑにあらしを憎べきものすなはち預言しやダニエルによりていはれしところのもの聖處にたつを見バ「よむものよくかんがへよ」十六そのときユダヤにあるものハ山ににげよ十七屋のうへにをるものハその家のものをとりにおりるなかれ十八田畑

にをるものハそのころもをとりにかへるなかれ 十九 わざはひなるハその日くらしめるものと乳（ち）をのまするをんななり 廿 汝ら冬（ふゆ）または安息日（あんそくにち）に逃（にぐ）ることなきやうにいのれ 廿一 いかにとなれバそのときのおほひなるなやみハ世（よ）のはじめより今にいたるまでかくのごときハあらざりきまたのちにもあるまじけれバなり 廿二 もしその日をみじかくせられざれバひとりもすくはるゝものなかるべしされどえらまれしもののためにその日をみじかくせらるべし 廿三 もしそのときこゝにキリストこゝにありかしこにありと汝らにいふものありとも信（しん）ずるなかれ 廿四 いかにとなれバにせキリスト偽預言者（にせよげんしや）たちおこりて仕遂（しとげ）らるゝならバえらまれしものをもあざむくやうにおほひなる兆（しるし）とふしぎなることをなさん 廿五 みよわれ汝らにあらかじめつげおきぬ 廿六 ゆゑにこゝにキリスト野（の）にありといふものありともいづるなかれみよ蜜屋（へや）にありといふものありとも信（しん）ずるなかれ 廿七 いかにとなれバ電（いなづま）の東（ひがし）よりいで西（にし）にまでひらめくごとく人の子（こ）のきたるもかくのごとくなれバなり 廿八 それ屍（しかばね）のあるところに鷲（わし）あつまるべし 廿九 その日のなやみの後（のち）たゞちに日ハくらく月（つき）ハひかりをうしなひ星（ほし）ハそらより

おち天(てん)のいきほひふるふべし 三十 そのときに人の子の兆(しるし)天(てん)にあらはれます地上(ちじやう)にある庶族(しよぞく)なげきて人の子權威(けんい)とおほひなる光明(くわうみやう)ありて天(てん)の雲(くも)にのりきたるをみるべし 三一 かれ喇叭(らつぱ)のおほいなるこゑをしてそのつかひをつかはしそのえらまれしものを天のこのはてよりかのはてまで四方(しはう)よりあつむべし 三二 それ汝ら無果花(いちじく)よりてたとへをまなべその枝(えだ)をでてはやはらかなるして葉(は)めぐめぐ夏(なつ)のちかきをしる 三三 かくのごとくまた汝らすべてこのことを見るときにこれハちかく門(かど)ぐちにいたるとしれ 三四 まことに汝らにつげんこのことことごとくなるまでハこの民(たみ)は

失(うせ)ざるべし 三五 天地(てんち)ハうせんされどわがことばハうせじ 三六 さりながらその日そのときをバ父のほか天のつかひだにもこれをしらざるぞ 三七 ノアのときのごとく人の子のきたるもまたしからん 三八 それハ洪水(こうずゐ)のまへノア方舟(はこぶね)にいる日まで人々飲食(のくひ)嫁(とつぎ)娶(めとり)なとして 三九 洪水きたりことごとくほろぼすまでしらざるがごとく人の子のきたるもまたかかるべし 四十 そのときふたり田畑(たはた)にあるにひとりハとられひとりハのこされ 四一 ふたりの婦女子(をんな)旋磨(うすひく)にひとりハとられひとりハのこされん 四二 ゆゑに汝らの主(しゆ)いづれのときにきたるかしらざれバめをさましをれよ 四三 家(いへ)の

あるじ盗賊いづれのときにきたらんことをしらバめをさましてその家をやぶらせざらんことをよくこころえよ 四四 このゆゑに汝らもまた覚悟せよいかにとなれバおもはざるときに人の子きたらん 四五 ときによりて糧をあたへしむるために主人がその家内のものゝうへにおかるゝ忠義にしてかしこきしもべハたれなるや 四六 その主人きたりてかくつとむるを見バそのしもべハさいはひなり 四七 まことに汝らにつげんその身代をかれにつかさどらせん 四八 そのあしきしもべおのがこころにわが主人のきたるハおそからんといひて 四九 その傍輩をむちうち酒にゑひたるものどもと飲食をともにせバ 五十 そのしもべの主人ハおもはざるの日しらざるのときにきたりてかれをきりころし偽善者と分をおなじくして刑せんそこにてかなしみて歯がみせることあるべし

第二十五章

そのとき天國ハともし火をとりて新娶をむかへにいづる十人の娘にたとふべし 二 そのうち五人かしこく五人おろかなり 三 おろかなるものハそのともし火をとるに油をたづさへず 四 かしこきものハそのともし火とともに器にあぶらを

ふびきつり五 新婿者ハおそけれバみなかりねにいねたり六 夜なかごろにみよはなむこきたりぬむかひにいでよとよぶのこゑありけれバ七 このむすめどもみなおきてそのともし火をとゝのへぬるに八 おろかなるものかしこきものにいひけるハわれらのともし火きえんとすれバ汝らのあぶらをわれにわけあたへよ九 かしこきものこたへていひけるハおそらくハわれと汝らとにたらざらん寧賣ものにゆきておのれのために買へ十 かれら買にゆきしとき新婿きたりければそなへしものハかれとともに婚禮にいりしかバ門ハとぢられけり十一 かゝるのちにそのほかの娘きたりて主や主やわれらにひらきたまへといへど十二 こたへてまことに汝らにつげん汝らをしらざるなりといへり十三 されバ人の子きたる日と時とをしらざるが故につゝしめよ十四 人の子旅にゆく人のごとしおのがしもべをよびてその産業をかれらにあづけ十五 各その器量によりて一人にハ金五千一人にハ二千ひとりにハ一千をあたへてやがてたびだちぬ十六 五千の金をうけしものハゆきてこれをあきなひしかバ別に五千をまうけたり十七 二千をうけしものもまた別に二千をまうけたり十八 しかるに一千をうけしものハ

ゆきて地(ち)をほりその主(しゆ)の金をかくせり 十九 ひさしくへてのちそのしもべのあるじきたりてかれらと計會(かんぢやう)をなしけるに 二十 五千の金をうけしものそのほかに五千金をもちきたりて主(しゆ)やなれに五千の金をあづけしにみよそのほかに五千の金をまうけたりといひければ 二十一 そのあるじかれにいひけるは嗚呼(ああ)善(ぜん)且(かつ)忠(ちう)なるしもべぞ汝わづかなることにおいて忠(ちう)になせりしゆゑ汝におほくのものをつかさどらせん汝のあるじのよろこびにいれよ 二十二 二千の金をうけしものもきたりて主(しゆ)やなんぢに二千の金をあづけしにみよそのほかに二千の金をまうけたりといひけれ 二十三 そのあるじかれにいひけるはああ善(ぜん)且(かつ)忠(ちう)なるしもべぞ汝わづかなることにおいて忠(ちう)になせりゆゑ汝におほくのものをつかさどらせん汝のあるじのよろこびにいれよ 二十四 さて一千の金をうけしものきたりていひけるは主(しゆ)や汝はきびしき人にてまかざりしところより穫(かり)とり散(ちら)さざりしところよりあつむる人なるとしりぬれば 二十五 われおそれゆきて主(しゆ)の一千の金を地にかくせりみよあなたはあなたのものをえたり 二十六 そのあるじこたへていひけるはあしくして且(かつ)おこたるしもべぞやなんぢはまかざりしところよりかりちらさざりしところよりあつむるをしりければ 二十七 しかればなんぢ

金をバ兌銀者にあづけおくべきなりさすれバわがくりしときに元金と利息とをうけとるべし 二八 よつてかれの一千の金をとりて十千の金あるものにあたへよ 二九 いかにとなれバすべてもてるものハあたへてなほあまりあらしめあらざるものにハそのもつところのものまでもとらるべしとなれバなり 三十 いたづらなるしもべをそとのくらきにおひやれそこにてなきし歯がみをすることあるべし 三一 さて人の子おのれの威光にてもろもろの聖なるつかひをつれきたるときにハその威光あるくらゐに坐し 三二 國々の民をそのまへにあつめ羊を牧ものゝ綿羊と山羊とをわかつごとくにかれらを品わけし 三三 綿羊をその右山羊をひだりにおかん 三四 かくて王右にをるものにいはん我が父にめぐまるゝものよきたりて世のはじめよりこのかた汝らのためにそなへられし國を繼よ 三五 いかにとなれバ飢しときにわれに食せ渇しときにわれにのませ旅せしときにわれをやどらせ 三六 裸なりしときにわれにきせ病しときにわれを訪尋獄にありしときにわれにきたれバなり 三七 このとき義ものこたへていはんいかん主やいつ主の飢しをみて食せまた渇しに

のませしや 三八 いつ主の旅せしとてやどらせまた裸なりしに衣せしや 三九 いつ主の病また獄にありしとて主にきたりしや 四十 王こたへてかれらにいはんまことに汝らにつげん汝らぞれよわがらの兄弟のいとちいさきもののひとりにおこなへるハすなハちわれにおこなひしなり 四一 つひにまたのぞりにをるものにいはん罰せらるべきものよわれをはなれてとこしなへて悪魔とそのつかひのためにそなへしきえざる火にいれよ 四二 いかにとなれバ飢しときにわれに食せずかわきしときにわれにのませず 四三 たびせしときにわれを舘らせず裸なりしときにわれに衣せず病また獄にありしときにわれを訪尋ざればなり 四四 このとき彼らもまたこたへていはん主やいつ主の飢また渇また旅しまた裸また病また獄にありしを見て主につかへざりしや 四五 そのときに王こたへてかれらにいはんまことに汝らにつげんこのいとちいさきもののひとりにおこなはざりしハすなハちわれにおこなはざりしなり 四六 これらのものハかぎりなき刑罰にいりてたゞしきものハかぎりなきいのちにいるべし

第二十六章

さてまた耶穌このことばをいひおはりてその門徒にいひけるハ二 二日のゝちにハ逾越のまつりあらんと汝らしれるごとく人の子十字架につけられんためにわたさるなりと三 そのとき祭司のをさたちと士子と民の長老たちカヤパといへる祭司のをさのやしきの庭にあつまり四 詭計をもつて耶穌をとらへころさんとゝもにはかり五 いひけるハ民のうちに亂のおこらんことをおそるゝゆゑにまつりの日にハすべからずぞ六 そのとき耶穌ベタニヤの癩病のシモンの家にをるとき七 ある婦蠟石の器にあたひたかき没藥を耶穌にもちきたり耶穌食せしときにその首にそゝぎしかバ八 その門徒見ていかりをふくみこの費のことハなにゆゑぞや九 それこの没藥を賣バおほくの金をえてまづしきものにほどこさるべきものをといひけるを十 耶穌しりてかれらにいひけるハよきことをかれになせしになにゆゑにこのをんなをなやますや十一 まづしきものハつねに汝らとゝもにをるにわれハつねにともにをらぬぞ十二 かれこの没やくを我が體にそゝぎしハ我のさうむりのためになせり十三 まことに汝らにつげん

天が下いづくにても この福音のひろめらるゝところにこの
をんなのなせしことも その形見のためにいひつたへらるべし 十四
そのとき十二でしのひとりイスカリオテのユダといへるもの 祭
司のをさたちにゆきて 十五 われかれを汝らにわたさバなに
をあたふるやといひけれバ 銀三十をかれに約せり 十六 このとき
より耶穌をわたさんとをりをうかゞへり 十七 除酵ぱんのまつり
のはじめの日にでし耶穌にきたりていひけるハ あなたの逾越
のまつりに食事せんとて われらあなたのためにそなふるハいづく
にせんとおもへるや 耶穌いひけるハ 十八 城下にいり何がしに

いたりて 師いへるハ わが時ちかづけバ われ門徒とともにすぎこし
の食事を汝の家にてなすべしといへ 十九 でし耶穌の命ぜし
ごとくしてすぎこしの食事をそなへけり 二十 日くれて耶穌
十二でしとともに席に坐しけり 二十一 食するときいひけるハ
まことに汝らにつげん 汝らのうち一人ハわれをわたさんかれ
らいたくうれひ おの／＼耶穌にいひいでけるハ 主やわれなる
か 二十三 こたへていひけるハ われとともに盃に手をつくるものこれ
をわたさん 二十四 人の子ハおのれについてしるされしごとくゆかんされ
ども人の子をわたすその人こそわざはひなれ その人うまれ

ざりしかバかれの幸なるものを 二五 かれをわたすものユダこた
へていひけるハラビやわれなるか かれにいひけるハ汝のいへる
ごとし 二六 かれら食をするとき耶穌ぱんをとり祝しいのり
て門徒にあたへていひけるハ取てくらへこれハわが身なりまた
杯をとり謝してかれらにあたへていひけるハ汝らみなこの
さかづきよりのめよ 二八 それハこれ新約のわが血にして罪をゆるさん
とておほくの人のためにながさるゝものなれバなり 二九 われ汝らにつ
げん今よりのち汝らとともにこれをあらたにわが父の國にのまん
日まですてびこの葡萄にてつくれるものをのむまじ 三十 かれら

うたをうたひてのち橄欖山にゆけり 三一 そのとき耶穌かれらに
いひけるハ今夜汝らみなわれにつきてつまづかん そハわれ牧
ものをうたんに群の綿羊ちらされんとしるされしなれバなり
三二 されどわれよみがへりしのち汝らに先だちてガリラヤにゆくべし
三三 ペテロこたへて耶穌にいひけるハみなあなたにつきてつまづ
くともわれハかつてつまづかされまじ 三四 耶穌かれにいひ
けるハまことに汝につげん今夜鶏なかざるまへに汝三たび
われをしらずといはん 三五 ペテロかれにいひけるハわれハ主と
ともに死をともあなたをしらずといはじ門徒もみなかく

いへり三六 そのとき耶穌かれらとともにゲツセマ子といへるところに
いたりて われかしこにゆきいのるまでこゝにをれとでしたちに
いへり三七 ペテロとゼベダイのふたりの子をつれてうれひなやみ
をはじめし三八 そのときかれらにいひけるハわがこゝろいたく
うれふること死ぬるばかりなりこゝにとゞまりてわれとともに目（め）をさ
ましをれ三九 すこしすゝみ俯伏（うつぶし）ていのりいひけるハわが父よ
若（もし）なるべくハこの杯（さかづき）をはなさせたまへ されどわがこゝろのまゝに
なさにあらでこゝろのまゝにまかせるなり四十 ちうして
門徒（でし）にきたりそのいねつるを見（み）ペテロにいひけるハかくもわれと
ともに一ときさへ目（め）をさましをることあたはざるか四一 まどひにいらぬ
やうにめをさましかついのれ 魂（たましひ）ハあつくすゝめども肉體（にくたい）ハ疲（よわ）さ
あり四二 ふたゝびゆきまたいのりていひけるハわが父よもしこの
さかづきをのまずしてこれをさることあたはずんバこゝろ
にまかすべし四三 またきたりてまたそのいねたるを見るそハその
目（め）のつかれしゆゑなり四四 かれらをはなれてまたゆき三たび
めもおなじことをいひていのれり四五 ついにそのでしにきたり
ていひけるハ今ハいねてやすめよそよ時ちかし人の子つみ
人の手（て）にわたさるゝなり四六 おきよわれらゆくべしそよ

われをわたすものちかづけりと 四七 いふうちにみよ十二の一人ユダ刃（やいば）と梃（つえ）とをもちたるおほくの人々とともに祭司（さいし）のをさと民の長老（としより）よりきたれり 四八 耶穌をわたすものかれらにあいづをしめしてわが接吻（キッス）せんものこそそれなれこれをとらへよといへり 四九 たゞちに耶穌にきたりてラビやすさやといひてこれに接吻（キッス）せり 五十 耶穌かれにいひけるハ友（とも）よなんのためにきたるやこゝにおいてかれらすゝみ手（て）を耶穌にかけてとらへたり 五一 みよ耶穌とともにをるもののひとり手をのばし剣（けん）をぬき祭（さい）司のをさのしもべをうちその耳（みゝ）を削（そぎ）おとせり 五二 こゝにおいて

耶穌かれにいひけるハ汝の剣（けん）をもとにおさめよいかにとなれバすべて剣（けん）をとるものハ剣（けん）にてほろぶべし 五三 われ今十二萬（まん）余（よ）の使者（つかひ）をたまはらんことをわが父にねがふことあたはずとおもふか 五四 しからバいかで聖書（せいしよ）に應（おう）ずべきやいかにとなれバかくあらねバならぬなり 五五 そのとき耶穌人々にいひけるハ刃（やいば）と梃（つえ）とをもちてぬすびとをとらゆるごとくにわれをとらへにきたるやわれ日々に汝らとともに殿（みや）に坐（ざ）してをしゆといへども汝らわれをとらへざりし 五六 さりながらこれらハ預言者（よげんしや）のしるされしにかなふやうになれり

こゝにおいて門徒ミな耶穌をすてゝにげさり 五七 耶穌をとらへしものは士子と長老のあつまりしところの祭司のをさカヤパへこれをひきゆけり 五八 ペテロとほくはなれて祭司のをさの庭まで耶穌にしたがひていりそのなりゆきを見んとて僕とともに坐しけり 五九 祭司のをさたち長老と全公會と耶穌をころさんとしていつはりの證據をもとむれども 六十 あまたのいつはりの證據人きたれどもなほえずのちにいつはりの證據人ふたりきたりていひけるハ 六一 この人われよく神の殿をこぼちて三日のうちにこれを建んといひしとあり 六二 祭司のをさたちて耶穌にいひけるハこたふることなきやこの人々汝の證據をたつるハなんぞや 六三 耶穌默然たり祭司のをさこたへてこれにいひけるハ汝キリスト神の子なるや否と活神になんぢをちかはせてわれらにつげよとなん 六四 耶穌これにいひけるハ汝いへるごとしされども汝らにつげんこのゝち汝ら人の子權勢の右に坐して天の雲にのりてきたるを見べし 六五 こゝにおいて祭司のをさその衣を裂ていひけるハこの人けがしごとをいへりなんぞほかの證據をもとめんやこゝに汝らも今そのけがせることをきけり 六六 いかにおもふぞや人々こたへて

かれハ死にあたれりといひつ六七こゝにおいてかれらその面に
つばきしまた拳にてうちある人もかれをたゝきていひけるハ
六八キリストよ汝をうつものハたれぞとわれらに預言せよ六九ペテロ
内庭に坐せしにひとりの下女かれにちかよりていひけるハ汝
もガリラヤの耶穌とともなりし七十ペテロもろ〳〵の人のまへにこば
みていひけるハ汝がいふことをしらずと七一いでゝ門ぐちにいた
るにまたひとりの下女かれを見てそこにゐるものにいふやう
この人もナザレの耶穌とともなりし七二ペテロまたこの人をしら
ずとちかひてうけあり七三しバらくしてそこにたちし
ものきたりペテロにいひけるハまことに汝もそのともがらの
ひとりなりいかにとなれバ汝の方言汝をあらはせバなり七四こゝに
おいてペテロのろひ且ちかひてわれその人をしらずといひつるに
鶏やがて鳴しかバ七五ペテロ耶穌のことバに鶏なかざるまへ
に汝三たびわれをしらずといはんといはれしをおもひ外に
いでゝかなしみなきぬ

第二十七章

平旦になりてすべて祭司のをさたちと民の長老ハ耶穌に
つきてこれをころさんとてともにはかり二すでにかれを

縛り曳て方伯のポンテオピラトにわたせり三ここにおいて耶穌をわたせしユダハ死にさだめられしを見て悔て その銀三十を祭司のをさたちと長老にかへして四いひけるハ無辜の血をわたしてつみをおかせりかれらいひけるハわれ〳〵においてなんぞやみづからかへりみよ五ユダ銀を殿になげすてさり往てみづから縊り祭司のをさたちこの銀をとりていひけるハこれハ血のあたへなれバ賽銭箱にいるべからずとてともにはかりこの銀をもて賓旅客をはうむるために陶工のはたけをかひとりゆゑにそのはたけをいまにいたるまで血のはたけとなづけらる

なり九ここにおいて預言者イエレミヤによりていはれしことにかなへれらく直積られしもののあたへイスラエルの子らよりねづもられしもののあたへの銀三十枚をとりて主のわれに命ぜしごとく陶工のはたけをかふてあたへしといへるにかなへり十一さて耶穌方伯のまへにたつ方伯耶穌にとひていひけるハ汝ハユダヤ人の王なるか耶穌これにいひけるハ汝がいふごとし十二祭司のをさたち長老たちをせめ訟ふるになにもこたへずここにおいてピラトかれにこの人ぐ汝にいかやうなる證據をたつるをきこえざるかといひしに方伯いとあやしめるほどに耶穌一言もこのまゝに

こたへざりし 十五 さてこのまつりの日ごとに方伯（かうはく）民（たみ）のねがひにまかせてひとりの罪人をゆるすの例（ためし）ありそのときバラバといへるひとりのきこえし罪人（つみびと）ありければ民（たみ）あつまりしときピラトまへにいひけるハバラバかあるひハキリストといへる耶蘇なるを汝らゆるされんとおもふやこれ媢嫉（ねたみ）によりて耶蘇をわたせしとしれバなり 十九 方伯（かうはく）吟味所（ぎんみところ）に坐（ざ）せしときその妻（つま）いひつかはしけるハその義（ぎ）しきものにかゝはることなかれわれまことなりしバ今日（けふ）ゆめにこの人によりおほくうれひぬれバなり祭司（さいし）のをさたち長老（ちやうらう）とバラバをゆるし耶蘇を殺（ころ）さんとねがへと民（たみ）にすゝめあへり 廿一 方伯（かうはく）こたへていひけるハふたりのうちいづれを汝らにゆるさんとおもふやかれらいふバラバなりといひけれバピラトいひけるハさらバキリストといへる耶蘇ハいかになるをなすべきやみな十字架（じふじか）につけよといひけり 廿三 方伯（かうはく）いひけるハかれなにのあしきことをなせしやかれらいよいよ十字架につけよとさけびいひけれバ 廿四 ピラトそのかひなくしてかへつてさはぎにならんとせるを見（み）て水（みづ）をとりてひとびとのまへに手（て）をあらひいひけるハこの義人（ぎしきもの）の血（ち）にハわれハ罪（つみ）なし汝らこゝろえられよといへり 廿五 民（たみ）みなこたへていひけるハその血（ち）ハわれとわれらの

もらにかゝるべし 二六 こゝにおいてバラバをかれらにゆるし耶蘇を
むちうちて十字架につけしめんためにわたせり 二七 こゝにおいて
方伯の兵卒（へいそつ）耶蘇を公廳（こうてう）にひきつれて組中（くみぢう）をかれによびよせ
二八 その衣（ころも）をはぎてむらさきのうは着（ぎ）をきせ 二九 棘（いばら）のかむり
ものをあみてその首（かうべ）にかむらしめまた葦（よし）を右の手（て）にも
たせ且（かつ）そのまへにひざまづき嘲弄（てうろう）していひけるハユダヤ人（びと）の王（わう）
やすかれと 三〇 またかれに唾（つばき）しそのよしをとりてその首（かうべ）をうてり
三一 かれを嘲弄（てうろう）しおはりてその外衣（うはぎ）をはぎとりそのころもを
きせ十字架（じふじか）につけんとてかれをひきゆけり 三二 いづるときクレ子
の人シモンといへるものにあひかれに強（しひ）てその十字架を負（おは）せり
三三 かれらゴルゴタといへるところこれを譯（わけ）バ髑髏（されかうべ）のところに
きたれハ 三四 醋（す）に膽（い）をあはせて耶蘇にのませんとせしになめ
てのむことをこのまざりし 三五 さて耶蘇を十字架につけしのちに
預言者（よげんしや）のことばにかれらたがひにわがころもをわかちて
外衣（うはぎ）を鬮（くじ）にとるといへれしにかなふて鬮ひきしてその衣（ころも）を
わかちぬ 三六 それよりこゝに坐（ざ）して耶蘇をまもり 三七 またこ
れハユダヤ人の王（わう）耶蘇なりと罪狀標（ざいぢやうへう）をその首（かうべ）のうへにたて
ぬ 三八 そのときふたりのぬすびとひとりハ耶蘇の右ひとりハ

左にゝなに十字架につけられたり 三九 往来するものの耶穌をけがし首をふりていひけるハ 四十 殿をこぼちて三日にこれをたつるものやみづからをすくへよ汝神の子ならバ十字架よりおりよ 四一 祭司のをさたち士子や長老どもおなじく嘲弄していひけるハ人をたすけしがおのが身をすくふことあたはざりしイスラエルの王なるものならバいま十字架よりくだるべしさらバわれらかれを信ぜん 四三 かれハ神にまかせたれバ神の子なりといひしうへハ神かれをいつくしまバいまたすけたまふべし 四四 ともに十字架につけられし盗賊もおなじく

耶穌をのゝしれり 四五 ひるの十二字より三字までその土地みなくらくなりぬ 四六 三字ごろ耶穌大聲によばはりてエリエリラマサバクタニといへりこれを譯せバわが神わが神なんぞわれをすてたまふやとなり 四七 かたはらにたちしものきゝてかれハエリヤをよぶなりといへり 四八 やがてそのうちのひとりはしりゆきて海賊をとり醋をふくませよしにつけて耶穌にのませけり 四九 そのほかのものいひけるハまてよエリヤきたりてかれをすくふやいなやを見ん 五十 耶穌また大聲によばはりてその魂をはなちぬ 五一 こゝに殿の戸牒上より下までさけてわかる

にたりまた地（ち）ふるひ磐（いは）さけ墓（はか）ひらけそこにいねる。五三 信者（しんじや）身（み）おほくよみがへり耶蘇のよみがへりしのち墓（はか）をいで聖城（みやこ）にいりておほくの人にあらはれたり 五四 百夫の長（ひやくにんのかしら）とともに耶蘇をまもるもの地震（ぢしん）およびありしことを見ていとおそれてこれハまことに神の子（こ）なりといへり 五五 ガリラヤより耶蘇にしたがひてつかへしおほくの婦（をんな）はるかにのぞみてゐたり 五六 そのうちにマグダラのマリアとヤコブヨセの母（はゝ）マリアゼベダイの子（こ）の母（はゝ）とありし 五七 日くれてアリマタヤの富人（とめる）もまたちでしなるヨセフと名つくるものきたれり 五八 かれハピラトにゆき耶蘇の

屍（しかばね）をこひしにピラトしかばねをわたせと命（めい）ぜり 五九 ヨセフ屍（しかばね）をとりてきよき帛（ぬの）につゝみ 六〇 これを磐（いは）にほりしおのれのあたらしき墓（はか）におさめ墓（はか）の門（もん）におほいなる石（いし）をまろばしてさりぬ 六一 マグダラのマリアとほかのマリアと墓（はか）のむかふに坐（ざ）してそこに居（ゐ）たり 六二 祭（まつり）のそなへ日の翌日（よくじつ）祭司（さいし）のをさたちとパリサイの人ピラトにつどひきていひけるハ 六三 主（しゆ）よかの僞者（いつはりもの）の存（いける）とき三日の後（のち）によみがへらんといひしとおもふにおそらくハそのでし夜（よる）きたりこれをぬすみて民（たみ）に死（し）せしよりよみがへりしといはん 六四 ゆゑに命（めい）じて三日まで墓（はか）をかため

させよ さなくハのちのまよひハ先(さき)よりいやまさるべし 六五 ピラトかれらにいひけるハ汝らにまもるものありゆきておもふやうにかためさせよとかれらゆきて石に封印(ふういん)しまもるもののをして墓(はか)をかためさせし

第二十八章

安息日(あんそくにち)すぎさりてひとめぐりのはじめの日夜(よ)あけどきにマグダラのマリアとほかのマリアとその墓(はか)を見んとてきたりしに 二 こゝにおほいなる地震(ぢしん)ありしこれ主(しゆ)のつかひ天(あま)くだりきて石(いし)を門(もん)よりまろばしてそのうへに坐(ざ)されバなり 三 その容貌(ようぼう)電(いなづま)のごとくその衣(ころも)ハ雪(ゆき)のごとくしろし 四 まもるものハその主をおそるゝによりてふるひてさながら死せしもののごとくなりぬ 五 つかひこたへて女にいひけるハ汝らハおそるゝなかれ十字架につけられし耶蘇をたづぬるをしれバなり 六 かれハこゝにいまさずいひたまひしごとくによみがへりたまへりきたりて主(しゆ)のおかれしところを見(み)よ 七 すみやかにゆきてそのでしに死よりよみがへりたまへり汝らに先(さき)だちてガリラヤにゆきたまふかしこにて汝らハかれを見(み)んとつげよ 八 こゝに汝らにつげしぞ をんなおそれながらもいとよろこびて墓(はか)をさりそのでしにつげ

くそくりゆけり九門徒（でし）につげんとゆきしときたちまち耶穌かれらにあふてやすかれよといひけるにをんなたちみそのあしをいだきて拝（はい）せり十こゝにおいて耶穌かれらにいひけるハおそるゝなかれさりてガリラヤにゆけかしこにてわれをみんとわが兄弟につげよ十一をんなゆくときさこゝにまもるもののうち城下（じやうか）にいたりすべてありしことを祭司（さい）のをさらにつげしかバ十二かれらと長老（としより）あつまりてともにはかりおほくの銀（ぎん）を士卒（しそつ）にあたへていひけるハなんぢらいふべしそのでし夜（よる）きたりてかれをぬすみしといへよ十四このこと方伯（かうはく）にきこえなバわれらかれにすゝめて汝らにハこゝろづかひあらしめんと十五かれら銀（ぎん）をとりていひふくめられしごとくせりこの話（はなし）ハユダヤ人のうちに今日（こんにち）にいたるまでいひひろめらる

十六さて十一のでしガリラヤにゆき耶穌のかれらに命（めい）ぜられし山にいたり十七耶穌を見（み）て拝（をが）みしかれどもうたがひしものもありき十八耶穌すゝみきたりていひけるハ天（てん）のうち地（ち）のうへのすべての権（けん）をわれにたまへり十九ゆゑになんぢらゆきて父（ちゝ）と子と聖霊（せいれい）との名によりてかれらに洗禮（せんれい）をほどこしわがすべて汝らに命（めい）ぜしことをまもれとをしへて萬國（ばんこく）

の民（たみ）を門徒（でし）とせよ　みよ　われ世（よ）の末期（おはり）まで　つねに汝等（なんぢら）と
ともにあるなり　亞孟（あめん）

大阪東区　町三番
聖書發賣所